

教育委員会の先生方とともに明日の教育を考える

全国の教育委員会に無料でお届けしています

# VIEW21

ビュー21

2020

Vol. 3

教育委員会版

特集

## コロナ禍でも一歩前へ！ 2021年度の英語教育

要点整理

上智大学短期大学部 教授 狩野晶子 / 関西大学 教授 田尻悟郎

実践事例

小学校英語のパフォーマンス評価 /  
中学校の英語4技能の指導 / ICTを活用した英語指導

連載

フロントランナーに聞く 教育のnext

大阪府大阪市立大空小学校 初代校長

木村泰子

教育長が語る Leader's VIEW

神奈川県川崎市

データで教育を読む Benesse Report

「努力を信じる心」と学習意欲

令和時代の教育を語ろう

元陸上選手 為末 大

# 多様な背景を持つ子どもが 共生・協働する力を独自施策で育む

神奈川県 川崎市教育委員会 教育長 **小田嶋 満**

人口の増加や国際化など、絶えず変化し続けている神奈川県川崎市。多様な子どもが共生する環境を強みとした資質・能力の育成を目指し、子どもの自立を支えたいと、小田嶋満教育長は語る。その取り組みについて聞いた。

おだしま・みつる 川崎市の公立中学校で国語科教諭として勤務。川崎市立稲田中学校校長、教育委員会事務局学校教育部長、宮前区長等を歴任。2019年4月から現職。

## 人権尊重教育を根幹に 多様性を尊重する心を育む

工業都市として発展してきた本市は、かつて公害問題に悩んだ時期もありましたが、現在は様変わりしています。工場のあった跡地には、先端産業の研究機関が集積するとともに、マンションなどの宅地開発が進みました。交通の利便性も高く、今では、「選ばれるまち」として人口が増え続けています。子どもの増加には学校を新設して対応していますが、教員不足などの課題も生じています。

本市の教育施策の土台にあるのは、多様性の尊重です。歴史的に在日韓国・朝鮮人が多い地域であることに加えて、近年は、外国人の人口増加に伴って子どもの多国籍化が進んでいます。市内の小・中学校には20を超える言語を母語とする子どもが通い、日本語の指導が必要な子どもは、この7年間で3.7倍に増えました。そのため、今までの国際教室による対応のスキームに加え、母語による日本語初期支援、国際教室未設置校への非常勤講師の派遣など、個別指導体制の充実に努めています。

本市では、そのような多様性を生かすことを重視してきました。教育施策の重点を定めた「かわさき教育プラン」でも、基本目標の1つに「共生・協働」を掲げ、「個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会の実現をめざし、共生・協働の精神を育むこと」を目指しています。

多様な背景を持つ子どもが共生し、互いを尊重し合えるように、人権尊重教育をあらゆる教育活動の根幹に位置づけ、長年にわたり実践を積み重ねてきました。今、新型コロナウイルスに関連した差別や偏見が問題視されていますが、本市の学校では今のところ大きな問題は起こっていません。それも、これまでの人権尊重教育の成果の1つと捉えています。

多様な子どもたちの共生・協働を支えるのは、基本的な人間関係を構築する力です。しかし現代では、家庭や地域社会でかつてのような様々な経験を積む機会が減ったため、その力が十分に身につかないまま小学校に入学し、クラスや学校で集団生活を送ることがままならないケースが生じています。特に、地域とのか

かわりが希薄になりがちな都市部ほどその課題は大きく、本市でも子どもの自己肯定感が全国平均に比べてかなり低かった時期がありました。集団内で自分らしさを発揮しづらいことが、一因としてあったと考えています。

そこで、家庭や地域で積み残した経験を学校で意図的・計画的に補おうと、2010年度、全市立学校に「かわさき共生\*共育プログラム」を導入しました。年間6時間を標準とし、自己理解や自己表現、他者理解、コミュニケーションスキルなどを学ぶエクササイズを通じて、人間関係づくりの体験を小学1年生から積み上げていきます。また、個人と集団の状況を把握するために、簡単なアンケートとその結果をプログラム処理して散布図の形で可視化した「効果測定」も活用し、日常の学級づくりと関連させた取り組みを進めることが、学校生活の満足度や自己肯定感の向上などにつながっています。

## 行政区の教育担当者が 迅速で適切な対応を支援

2013年度からは、独自の「キャ



リア在り方生き方教育」にも力を入れてきました。そこでも共生・協働を重視し、さらにシビックプライドの醸成を図るため、①個性・持ち味を最大限に発揮しながら、②共生・協働の精神を養い、③郷土を愛し、ふるさと川崎の将来の担い手を育成する取り組みを行っています。高校や大学を卒業後、東京や横浜など市外に出る人も多くいますが、地域のよさや可能性を深く理解することで、やがて本市に戻り、市の発展に貢献してくれることを期待しています。

「キャリア在り方生き方教育」では、「つなぐ」をキーワードとして、家庭や地域、社会との連携も重視しています。それに加え、今は持続可能なまちづくりに向けて、SDGs\*と結びつけた活動の充実を図っています。本市は、長年行ってきた公害問題対策など、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが評価され、2019年度に内閣府の「SDGs未来都市」に

選定されました。そうした地域の資源を、積極的に教育に生かしていく考えです。

また、学校が様々な課題に迅速・適切に対応できるよう、2008年度から7行政区の各区役所に教育担当の職員を置き、区役所の関係部署と連携して、学校支援や保護者支援、定期的な学校訪問など、地域の実態に応じた支援をきめ細かく行っています。さらに、2016年度からは区民の様々なケアを担う「みまもり支援センター」内への配置とし、福祉・医療部門を始めとした関係部署や関係機関との連携をさらに強め、様々な事案に速やかに対応できるようにしました。

### 教育の不易を見定めつつ 新たなチャレンジを続ける

令和時代の教育を考えると、変化への対応がこれほど求められている時代は、恐らく明治期の学制発布以

来初めてでしょう。それだけに、不易と流行の見極めがこれまで以上に重要であると考えています。

30年先に学校がどのような変容を遂げているかは予測困難ですが、対話や相互の関係性の上に成り立つ共生的・協働的な学びは、教育の不易であり、学校の重要な意義であり続けるでしょう。今後もキャリア教育などを一層充実させて、多様な存在を受け入れ、他者を思いやる想像力を持つ子どもを育むという方針は変わらないと考えます。

一方で、社会の変化に合わせて発想を変え、思い切った新たな視点を取り入れることも重要になるでしょう。その1つが「GIGAスクール構想」であり、理想の授業や教育活動を実現するためのチャンスにほかならないと捉えています。これからも、教職員がワクワクしながら新たな教育を生み出し、チャレンジしたくなる環境づくりに努めていきます。



## 神奈川県川崎市 プロフィール

◎神奈川県北東部に位置する政令指定都市。戦前より京浜工業地帯の中核として、日本経済の発展を支えてきた。近年は重化学工業から研究開発型のものづくりの拠点へと移行しつつある。人口増加が続き、2030年には158万人になると予想されている。人口 約154万人 面積 約144.35km<sup>2</sup> 市立学校数 小学校114校、中学校52校、特別支援学校4校、高校9校 児童生徒数 約10万8,800人 電話 044-200-3261 (教育委員会総務部) URL <https://www.city.kawasaki.jp/880/>

\* Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。

## 4 特集

# コロナ禍でも一歩前へ！ 2021年度の英語教育

## 6 要点整理 小学校

焦らずに、たくさんの音声を聞かせ、英語を英語で捉える感覚を育みたい  
上智大学短期大学部 教授 狩野晶子

## 9 要点整理 中学校

コンテンツから迫る授業が、知識・技能も豊かな人間性も育む  
関西大学 外国語学部 教授 田尻悟郎

## 12 事例1 岐阜県 岐阜市教育委員会

指導計画、指導案、学習評価をセットで提示 授業の質向上と、目標・評価の一体化を図る

## 15 事例2 東京都 国分寺市立第一中学校

目標を明確にしたプロジェクト型授業で、自ら考え表現できる「使える英語力」を育成

## 18 事例3 東京都 私立・新渡戸文化中学・高校

ICTを活用しながら、生徒がそれぞれの目標に向かって学ぶ

## 19 研修のヒント

授業改善や、校内での指導力向上にも研修動画の活用を

## 20 VIEW'S REPORT

## Edvation × Summit 2020 Online 開催レポート

## 連載

## 巻頭 教育長が語る Leader's VIEW

神奈川県 川崎市教育委員会 教育長 小田嶋 満  
多様な背景を持つ子どもが共生・協働する力を独自施策で育む

## 22 フロントランナーに聞く 教育のnext

大阪府 大阪市立大空小学校 初代校長 木村泰子  
学校の最上位の目的は、学習権の保障  
すべての子が自分らしく学べる場づくりを

## 26 現場につなぐ 新課程GOODプラクティス

ポートフォリオの活用 新潟県 新潟市立鳥屋野中学校

## 28 データで教育を読む Benesse Report

「努力を信じる心」を育むために  
教員ができること

## 30 教育施策で導く わがまちの未来

愛媛県宇和島市 市長 岡原文彰

## 巻末 リレーメッセージ 令和時代の教育を語ろう

元陸上選手・Deportare Partners代表 為末 大  
社会全体の幸福のために個人のあり方に目を向ける教育を



表紙の写真は、新潟県新潟市立鳥屋野中学校の学校生活の様子です。同校の取り組みは、P.26～27をご覧ください。



『VIEW21』  
教育委員会版が  
電子ブックになりました！

『VIEW21』教育委員会版の2020年度以降の号は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトからご利用ください。

HOME → 教育情報 → 教育委員会向け → バックナンバー

VIEW21 教育委員会版 検索

◎すべての記事（バックナンバー含む）を、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトからPDFでダウンロードいただけます。

<https://berd.benesse.jp> または

\*本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。\*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。

教育情報誌『VIEW21』は、2021年4月、名称を変更いたします。  
予測困難な時代だからこそ、今をしっかりと見つめ、未来を描く。  
21世紀のその先も、学校教育のパートナーとなることを目指します。  
今後とも、ご指導、ご教示のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

VIEW21 編集部

新名称

# VIEWnext

〈ビューネクスト〉

## VIEWnext 創刊記念セミナーのご案内

**日時** 2021年3月27日(土) 13時30分～15時40分

**形式** オンライン (Zoom)

**参加費** 無料

### ◎主なプログラム

#### 特別講演

「予測困難な時代を生きる  
私たち人間に  
求められていること」

将棋棋士

羽生善治九段



#### 基調講演

「コロナ禍の今こそ、  
『新学習指導要領』の要諦を改めて捉える」

國學院大學 田村 学 教授



#### 分科会

小・中学校領域

「ICT×新学習指導要領×個別最適化  
～GIGAスクール構想で  
どのような学びを実現するか～」

東北学院大学 稲垣 忠 教授



高校領域「新学習指導要領に基づく新教育課程の編成で  
必要な視点・考え方」

参加申し込み  
受け付け中!

右の2次元コード、または下記 URL からお申し込みください。

<https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/we95866ed9/form.php>

申し込み締め切り 2021年3月24日(水)



主催：(株) ベネッセコーポレーション VIEW21 編集部

\*プログラムの内容は、変更する可能性がございます。あらかじめご了承ください。 \*本セミナーへのご参加には、スマートフォン・タブレット・パソコンのいずれかが必要です。接続にかかる通信費用は、参加される方のご負担となります。 \*お問い合わせは、下記の「お客様サービスセンター」までお願いいたします。  
\*本誌をお送りした封書に、本セミナーの詳しいご案内チラシを同封しています。ぜひご覧ください。

お問い合わせ先

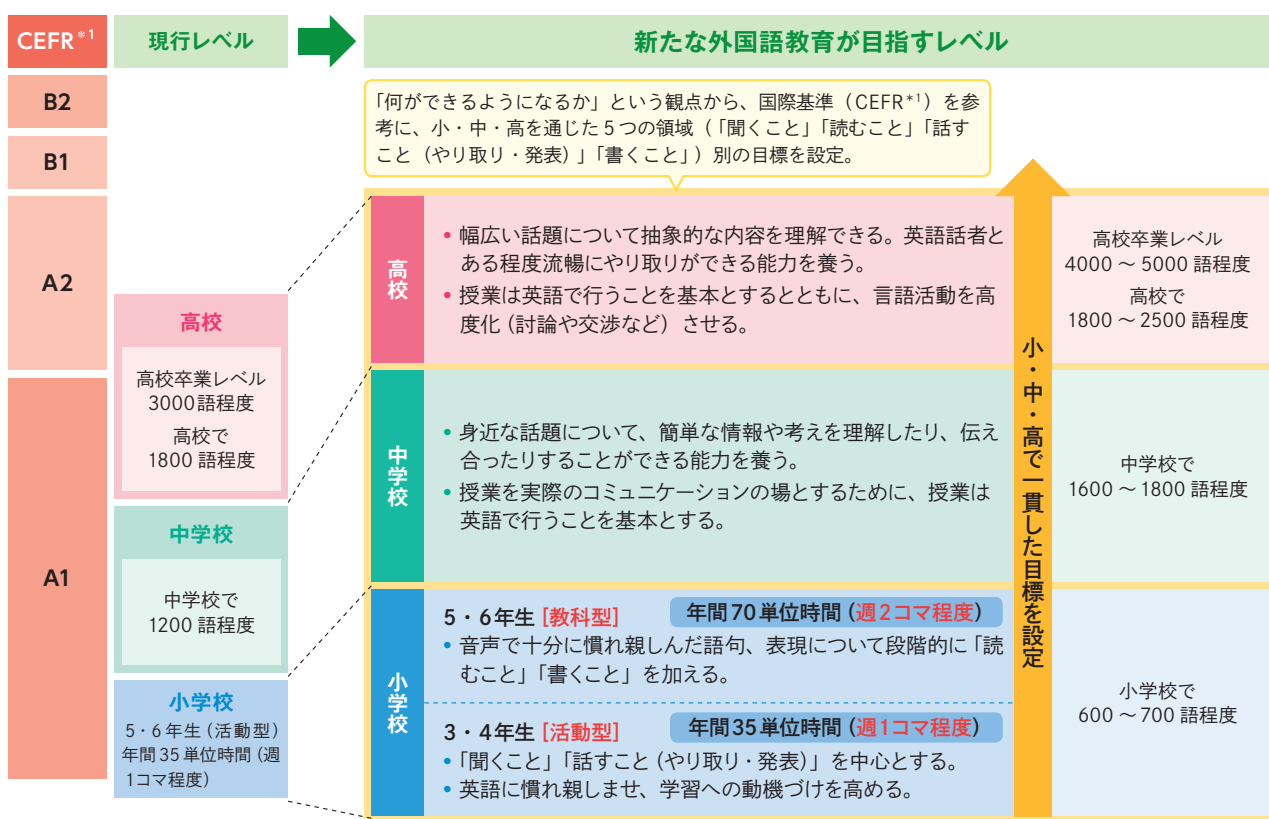
お客様サービスセンター 0120-350455

受付時間 月～金 8:00～18:00 土 8:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)

# コロナ禍でも一歩前へ！ 2021年度の英語教育

## TOPICS 1 小学校では教科化、中学校では語彙数や文法事項が増加

### ■ 小・中・高における英語教育改革のイメージ



\* 文部科学省資料を基に編集部で作成。

2020年度から小学5・6年生で外国語（以降、「英語」と表記）が教科化されたことに続き、2021年度からは中学校の英語科の指導内容が変更される。

中学校で取り扱う語彙数は、小学校で学習する600～700語に加えて、従来の1200語程度から、1600～1800語に増加する。また、これ

まで高校の履修内容だった文法事項（現在完了進行形、原形不定詞など）が、中学校の履修内容となる。そして、領域は、「話すこと」が「やり取り」と「発表」に区分され、授業は英語で行うことが基本とされる。対話的な言語活動を通じて英語を習得することが一層重視されたことの見えだ。

中学校の英語科の目標は改訂前の

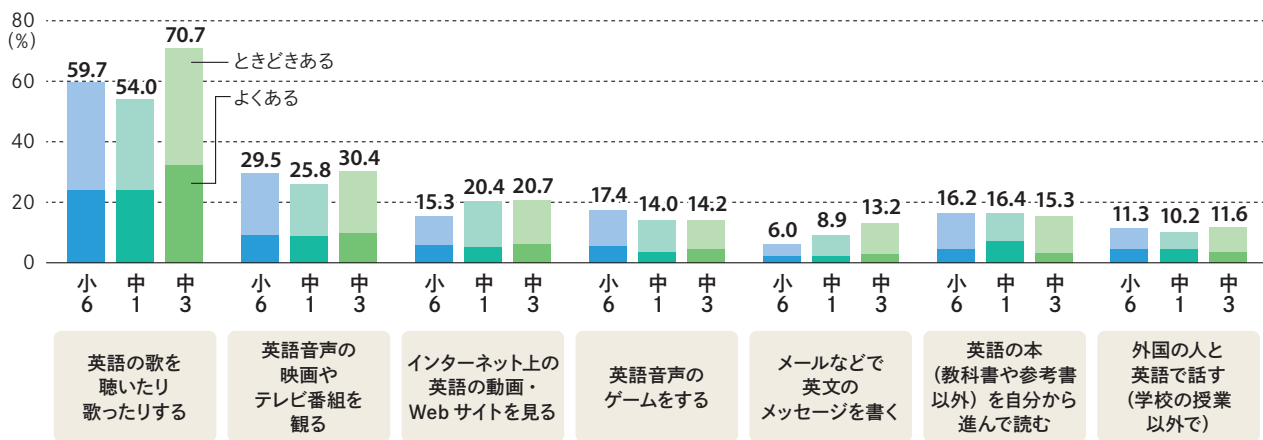
方向性を踏襲しているが、小・中・高すべてに共通するのは、各学校段階の学びを接続させることと、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にすることで、コミュニケーション能力を確実に高めることが求められている点だ。その実現に向け、各校には指導のあり方や計画の見直しも期待されている。

\*1 ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）の略称。語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会が発表。A（基礎段階の言語使用者）、B（自立した言語使用者）、C（熟達した言語使用者）ごとに2レベル、計6レベルが設定されている。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、2019年度末から現在に至るまで、教育活動は大きく制限され、教育委員会と学校現場も重い負担を強いられてきた。そうした中、小学校では今年度から、中学校では2021年度から新学習指導要領が全面実施となり、とりわけ、外国語は、小・中学校ともに指導内容の変化が大きく、最も留意したい教科の1つとなっている。学校訪問や研修の機会が減っている中で、限られた時間を有効活用し、何を学校現場に伝えればよいのか。本特集では、2021年度に向けた英語教育の方向性とそのポイントを、実践事例とともに考える。

## TOPICS 2 学校の授業以外に、児童生徒が英語に触れる機会は少ない

■英語に触れる機会（複数回答）



注) グラフの数値は、「よくある」と「ときどきある」の合計。\*ベネッセ教育総合研究所「高1生の英語学習に関する継続調査2019」を基に編集部で作成。

小・中学生が、普段の生活で英語に触れる機会は全般的に少ない。そうした中で比較的頻度が高いのは、「英語の歌を聴いたり歌ったりする」で、約6～7割（「よくある」と「ときどきある」の合計）が行っている。しかし、英語を書く・話すなど、コミュニケーションのために英語を使う機会がある割合は、1割程度にとどまっている。

## TOPICS 3 アウトプット活動におけるICT活用に期待

■英語の授業におけるICT機器の活用状況（2019年度）

	小学校 (%)	中学校 (%)	高校 (%)
ICT機器の活用を行った学校の割合	99.1	96.6	91.7
教師がデジタル教材等を活用した授業	99.0	92.4	88.9
児童生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動	41.4	44.0	47.4
児童生徒が発話や発音などを録音・録画する活動	21.8	36.6	34.2
児童生徒がキーボード入力等で書く活動	20.3	23.7	29.8
児童生徒が電子メールやSNSを用いたやり取りをする活動	1.5	3.7	9.0
児童生徒が遠隔地の児童生徒等と英語で話をして交流する活動	3.0	3.2	5.9
遠隔地の教師やALT等とチーム・ティーチングを行う授業	2.8	4.0	6.3
児童生徒が遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話を行う活動	2.0	2.8	5.8

交流・遠隔授業

言語活動・練習

コンテンツ・授業運営

新学習指導要領には、ICT等の活用による指導の効率化や言語活動のさらなる充実が明示されている。英語の授業でICT機器を活用している学校は、小・中学校とも100%に近い。ただ、活動内容別に見ると、活用率が低いものも多い。今後は、子ども自身がICT機器を操作してアウトプットする言語活動や、インターネットを介して遠隔地の児童生徒・教員とつないでやり取りをする活動などについて、さらにICTが活用されることが期待される。

注1) すべての割合について、「ICT機器を活用した学校数」を分子、全学校数を分母として計算。

注2) 「ICT機器を活用した学校数」は、「積極的に活用した(する)」「時々活用した(する)」「全く活用しない」の3択のうち、「積極的に活用した(する)」「時々活用した(する)」と回答した学校の数。

\*文部科学省2019年度「英語教育実施状況調査」の結果を基に編集部で作成。

# 焦らずに、たくさんの音声を聞かせ、英語を英語で捉える感覚を育みたい

上智大学短期大学部 教授 <sup>かの</sup>狩野晶子

新学習指導要領が全面実施となった小学校。コロナ禍の影響で、授業が計画通りに進まなかった学校も多いだろう。そうした状況だからこそ、小学校の「外国語活動」「英語科」のねらいを忘れずに、目の前の子どもをしっかり見取り、一歩ずつ学びを進めていくことが大切だと、上智大学短期大学部の狩野晶子教授は語る。

## 狩野教授からのメッセージ

- 1 英語習得のポイントは、「音声」。デジタル教材も活用しながら、大量の音声をインプットしよう
- 2 英語の学習評価も、ほかの教科と同じ感覚で捉える
- 3 目の前の子どもを見取り、当初の計画にとらわれずに、目標と指導を見直すことが大切



かの・あきこ 上智大学大学院外国語学研究科言語学専攻博士前期課程修了。専門分野は、第二言語習得、英語教育、児童英語教育。上智短期大学（現・上智大学短期大学部）助教、准教授を経て、2020年4月から現職。自身が幼少期を海外で生活し、英語を習得した体験を踏まえた研究・実践を行っている。

## 小学校英語の基本

### 英語の習得は 覚えて、忘れての繰り返し

—— 全面実施1年目となった2020年度を振り返って、小学校の新学習指導要領の実践上のポイントはどこにあるとお考えでしょうか。

**狩野** 新学習指導要領は、国が目指す英語教育を明確に示しています。ただ、小学校の英語教育は黎明期にあります。目指す先が分かっても、すべての学校現場がそこに到達するのは時間がかかると捉えた方がよいかもしれません。

そもそも、子どもは教えた通りに習得するわけではありません。教えたことをすべては取り込めず、アウトプットできるようになるのは、さらにその一部です（図1）。言語は、一度覚えても忘れて、また覚えて、といった学びを根気強く続けること

で習得していくものです。英語力の伸びが見られないからといって詰め込み型の指導を重ねれば、子どもを英語嫌いにしてしまうだけです。小学校英語は英語学習の地ならしをする時期ですから、肩の力を抜いて、子どもが「英語は楽しい」と思って中学校に進めることを大切にしてほしいと思います。

—— そうすると、指導内容のうち、小学校では何を優先すべきでしょうか。

**狩野** 私は、音声だと考えます。コミュニケーションにおいては、話の流れの中で意味を読み取る力が重要になりますが、それを養うためには、英語の場合、実際に英語を聞き、音声に慣れる必要があるからです。

たくさんの単語やフレーズを繰り返し聞いて、音の固まりが意味と結びついて頭に残っていると、文法を知らなくても誤った用法を聞いた際に、「いつも聞いているのと違う音だ」と

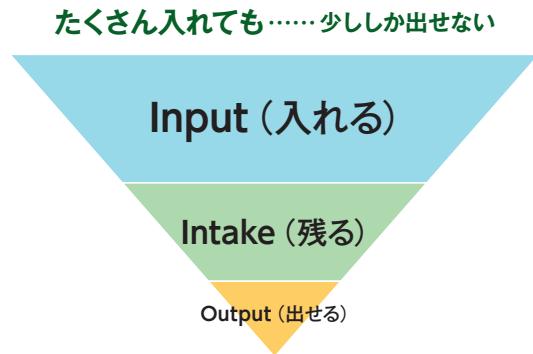
違和感を覚えます。いわばそうした直感のようなものをつかんでいけば、中学校以降に文法事項を学習する際にも高い学習効果が期待できます。

言い換えると、違和感を覚えるようになるくらいに音声を聞かせることが大切です。それは、音声を柔軟に受け止められる児童期だからこそできる学びです。

児童期の子どもは、音声に敏感で、音の固まりを丸ごと処理する力がありますから、耳にした英語の表現をチャンクとして丸ごと覚えて再現できます。また、楽しいと感じれば、飽きずに同じことを繰り返す傾向があることも、言語習得には適しています。さらに、全部を理解できなくても気にしないという、曖昧さを受け入れる耐性もあります（図2）。つまり、児童期ならではの、言語習得に適した複数の特性があるのです。

本学では、学生が地元の小学校で

図1 英語学習の考え方



\* 狩野教授の資料を基に編集部で作成。

英語授業を行う機会が年40時間あります。授業はすべて英語で進め、学生の話す英語が子どもに伝わらなくても、身振りをしたり、絵を添えたりして何度もやり取りします。すると、子どもも学生の言いたいことを考え、「○○じゃない？」と推測して反応します。英語だけでも、双方が知恵を絞ることで、深い学びにつながっています。

授業中に子どもが分からないという表情をすると、先生方は不安になり、つい日本語を使ってしまふかもしれません。しかし、そこは子どもを信じて我慢し、たくさんの英語を使い続けることで、子どもへのインプットを増やしてほしいと思います。

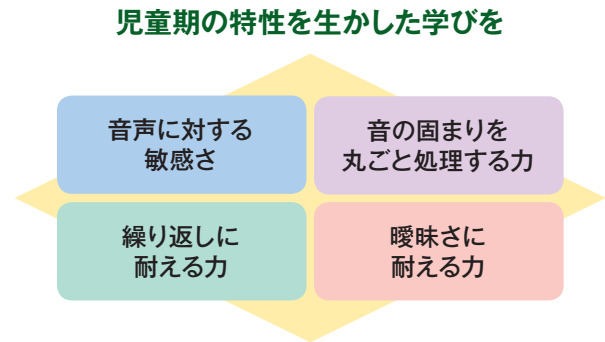
### ICTの活用

#### 英語力に不安があれば デジタルの力も借りる

— 音声的大事といわれても、英語力に自信のない先生は、途方に暮れてしまいそうです。

**狩野** そこはICTの出番です。「GI GAスクール構想」で配備されるタブレット端末を活用し、様々な英語の音声に触れる機会を増やしましょう。動画配信サイトには、多種多様な英語学習動画が公開されています。また、デジタル教材には、自分の発音の正しさを判定してくれる音声認識

図2 児童期の子どもの特性



\* 狩野教授の資料を基に編集部で作成。

機能があるものや、クイズ形式で楽しみながら学ぶものなど、紙の教材ではできない仕組みがあります。低・中学年でも1人での学習が可能です。

コロナ禍で対面での言語活動が難しい今、オンラインでの双方向の言語活動もぜひ実現したい活動です。授業で練習した内容を実践する場が必要であり、実践してこそ実際のコミュニケーションをイメージして練習ができるからです。前述した本学の学生が行う小学校での英語の授業は、今年度はオンラインで行いました。子どもと学生が4～5人ずつのグループになり、発表やクイズで楽しそうに活発なやり取りをしていました。

ただ、オンラインでのやり取りは、低学年の子どもにはまだ難しいかもしれません。集中力が続かないことと、画面に表示されない情報を読み取る力が十分に育っていないからです。物事を抽象化して捉えられる高学年の活動に取り入れるとよいでしょう。

### 5・6年生の指導

#### アルファベットを身体感覚で覚えることが文字習得の土台に

— 5・6年生では文字指導が始まります。どのような点に気をつければよいでしょう。

**狩野** 3・4年生で行う文字の導入指導がポイントです。いきなり紙に

書かせずに、アルファベットの字形を体で表現する体操などを活用し、まずは体を動かして覚えさせましょう。アルファベットを身体感覚としてインプットしておく、5・6年生で紙と鉛筆を使った時のアウトプットがスムーズに行えます。国語科では、1年生から、空書きなどの全身を使った文字指導を丁寧に積み上げていると思いますが、英語の文字指導も趣旨は同じです。

先生方には、ご自身が中学校以降に学んだ英語の授業の方法が小学生に最適なのかどうかを、自問する姿勢をぜひ持っていただきたいと思います。文字や文法も、音声を伴った言語活動の中で習得を目指すのが、今、求められている英語学習です。

小学校の英語教育は、中学校の前倒しではありません。小学校で英語学習を行うねらいを十分に理解し、児童期の特性を生かした言語活動を通じた学びを軸として授業を実践することが重要です。教育委員会は、先生方に指導観の転換を促すとともに、発達段階に応じた指導などをしっかり伝えてほしいと思います。

— 5・6年生では、観点別評価と評定が行われます。小学校の先生には初めてのことであり、評価の仕方が分からないという不安の声も聞かれます。

**狩野** 英語科の学習評価も、ほかの教科の学習評価と同じように考えて

みてください。例えば、体育科の学習評価をどのように行っているでしょうか。子どもによって身体能力は異なりますし、習い事で、既に水泳や球技などの技術を身につけている子どももいます。その中で先生方は、技術のレベルだけでなく、技術の伸びや試合中のチームへの貢献具合なども見取って評価しているはずです。それはおのずと、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力の評価につながっています。

英語科も、スタート地点が違う子どもを同じ軸で評価しないという点では同じです。ただ、英語の学習評価は多くの先生方にとって初めての経験となります。各校が評価基準をつくる際のよりどころとなるように、教育委員会が見本となるループリックを示すとよいかもしれません。

### 2021年度の指導の留意点

## 目の前の子どもに応じた目標設定と学習計画を

—2020年度は、コロナ禍の影響で思うように授業を進められなかった学校が多いと思います。2021年度の指導ではどのような点に留意すれば

よいでしょうか。

**狩野** 最初にお話ししたように、英語はスパイラルに学習を積み上げて習得していくものです。今できていないからといって焦る必要はありません。大切なのは、子どもの学習状況を把握することです。2018・19年度は移行措置期間であり、2020年度には臨時休業がありました。特に、新6年生は5年生までの3年間にどれだけ積み上げたかによって差が出やすいと考えます。各学年の学習を進めるための土台ができていないままに新学習指導要領の内容を指導しても、目指す成果に結びつくとは限りません。学年別のポイントを図3に示したので、参考にしてください。

2020年度は対面でのやり取りが制限されていたため、言語活動などが十分でないこともあるでしょう。その際には、指導計画の通りに進めることよりも、スパイラルな積み上げを丁寧に行ってみてください。そうした指導によって、次の学年での伸びしろがつくれます。

新5・6年生は、前年度までに音と文字を結びつける活動が十分に行われていない可能性もあります。その状態で書く指導をしても、単語が記号に

なってしまう、意味のある学習活動になりません。「読み」「書き」は学習内容が文字として形に残るので、テスト等の準備が容易で保護者などへの説明責任も果たしやすく、学習評価に使いやすいものです。しかし、それらを理由に、「読み」「書き」だけを評価の対象とすることは避けましょう。

先生方は、小学校での学習範囲をしっかりと終わらせて中学校に送り出したいという思いを強くお持ちのことでしょう。しかし、小学校卒業後も英語の学習は続きますから、長い目で見ると、中学校以降の学びの土台となる力を小学校で身につけておく方が重要です。

学校現場が、既にある計画や枠組みにとらわれずに、目の前の子どもの実態に合った目標を立て、それを自校のCan-Doリストやループリックにあてはめて指導していく。その一歩を踏み出せるよう、教育委員会には情報を発信してほしいと思います。そのために、有識者の講演や全国の実践事例を通じて指導の見直しを支援するなど、情報発信の仕方にも工夫が必要かもしれません。小学校英語が、中学校、高校で伸びていく英語力の土台となることを願っています。

図3 2021年度 小学校英語の指導の学年別に見たポイント

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度の指導のポイント
学年		小1	小2	小3	ゼロからの英語学習となる。音声のインプットを十分に行い、文字に慣れ親しむ。
	小1	小2	小3	小4	3年生の国語でローマ字を学習している。文字を理解しているように見えても安心せず、大文字と小文字、音と文字をしっかり結びつけてインプットさせる。
	小2	小3	小4	小5	通常授業で3・4年生の「外国語活動」を行った場合よりも、「聞く」「話す」活動が不足していた可能性もある。文字指導では、子どもが英文を読めなくても、やり取りのパターンを絞って繰り返し音声を聞かせることで、自分で音声化できるようにする。単語を読みやすくしようとカタカナをつける必要はない。
	小3	小4	小5	小6	5年生での言語活動が十分ではないことが想定される。自分の知っている英語で話すようにし、分からないことは調べて伝える活動を取り入れたい。一方で、読み書きをある程度行い、中学校進学に向けて自信をつけさせることも大切。

#### 移行措置期間

授業時数は、3・4年生は年間15～35時間、5・6年生は年間50～70時間と幅があった

#### 全面实施

2020年度は、コロナ禍の影響で言語活動を十分に行えていない場合もある

\* 狩野教授への取材を基に編集部で作成。

# コンテンツから迫る授業が 知識・技能も豊かな人間性も育む

関西大学 外国語学部 教授 田尻悟郎

2021年4月から全面実施となる中学校の新学習指導要領では、語彙数や文法事項の増加といった学習内容の変更がある。しかし、そこだけに気を取られずに、教科書の「コンテンツ」を掘り下げた授業で生徒の意欲を引き出し、国際社会に貢献していく際のコミュニケーション・ツールとなる英語力をしっかり育成していこうと、関西大学の田尻悟郎教授はエールを送る。

## 田尻教授からのメッセージ

- 1 なぜ、英語を学ぶのか。原点に立ち返ろう
- 2 教科書本文を通して伝わるメッセージに関連した、生徒の関心を引く話題で、授業に引きつける
- 3 人間教育の視点からも授業を見取り、目指す英語教育を具現化できるよう助言する



たじり・ごろう 兵庫県神戸市と島根県の公立中学校で26年間、英語科教員として教壇に立つ。2007年4月から現職。2017年度から2年間、関西大学中等部・高等部の校長も務めた。専門分野は、英語授業実践学、英語教科教育法。動画配信サイト「YouTube」の関西大学公式サイトで、中高生向け英語発音教材を配信中。

## 英語教育の目標

### 世界を見て英語教育を捉え 日々の授業を考えよう

— 中学校で長く英語を指導された経験から、新学習指導要領の内容をどのように捉えていますか。

田尻 新学習指導要領に示されている中学校の英語教育の趣旨は、これまでと何ら変わりありません。中学校で扱う語彙数が増え、高校の文法事項の一部が中学校の学習範囲に含まれるといった改訂がありましたが、「英語によるコミュニケーション能力の育成を意識し、言語活動に重点を置く」という指導方針は改訂前と同様です。学校現場に問われているのは、「英語を使って何ができるようになるか」を明確にした授業の実践です。

いま一度立ち戻りたいのは、「何のために英語を学習するのか」という原点です。アメリカで起きた大統領

選挙を巡る混乱、イギリスのEU離脱、中国の台頭、さらにコロナ禍と、世界は大きく揺れています。それらの動向は、グローバル化が急速に進展する時代にあって、日本に住む私たちにも深く関係します。

私たちは、多様な国や地域が共存する国際社会に生きています。その一員として社会に貢献するために、地球的視野に立って主体的に行動する態度や能力の育成を目指すのが「国際教育」です。その土台として、異文化への理解を深め、尊重・共生できる資質・能力やコミュニケーション能力を育むのが「国際理解教育」です。そして、国際理解教育の中でコミュニケーション能力を育む役割を担うのが、「英語教育」なのです。そうした英語教育の趣旨を理解していれば、育成すべき英語力とは他者とのコミュニケーションを前提としたものとなり、おのずと言語活動に

重点を置いた指導になるはずですが。

世界を見て、授業を考える。英語教育に携わる教員が、決して忘れてはならない視点です。

—そうした英語指導の実現に向けて大切な点を教えてください。

田尻 新学習指導要領では、外国語科に3つの目標が設定されています。私なりに要約すると次の通りです。

- ①外国語（英語）の知識・技能の習得
- ②コンテンツの理解
- ③コミュニケーションの素地の涵養

3つをバランスよく身につけてこそ、英語は生きて働く力になりますが、現状では、①の知識・技能の習得を重視した授業が多いと感じます。

言語は、人とのかかわりの中で用いられるもので、言葉を受け取る他者がいて初めて成立します。どういった言葉を使えば理解してもらえるのか（知識・技能）、相手が何を知りたいと思っているのか（コンテンツ）、

読み手や聞き手に配慮してどう伝えればよいのか（コミュニケーションの素地）といったことをすべて連携させながら高めていく必要があります。

そのように見ていくと、授業でペアワークやグループワークを行うことがいかに重要なかが分かるのではないのでしょうか。クラスは、一人ひとりが異なる考えを持つ多様な他者が共存する、世界の姿そのものです。普段あまり話さない人とも、授業では、どのように会話を進めていくか、どう言えばよいか、話の着地点をどう見いだすかと考えながら対話をします。それは、まさしく相手を踏まえて最適な言葉を選ぶ練習になるはずです。

#### 言語活動を実践する鍵

### 教科書のコンテンツから生徒の心にアプローチする

——言語活動に重点を置くと、高校入試に対応できる英語力の育成とは両立させることが難しいという声も聞きます。

**田尻** 高校入試では、教科書の学習範囲の定着が重要になりますが、その際に教科書を使って言語活動を行うことは十分に可能です。教科書のコンテンツは、中学1年生では登場人物の日常会話が中心で、中学2年生で読み物教材が増え、中学3年生で政治や宗教などに関連するエッセーも取り上げられます。授業では、文法事項の習得から始めるのではなく、まず「コンテンツ」からアプローチしてみてください。コンテンツとは、教科書の本文が伝えようとしているメッセージのことです。コンテンツの背景にあるものや関連する話題など、生徒が関心を持つような情報を提示して、「もっと知りたい」という学びの意欲を引き出すのです。

知識・技能の定着には繰り返し

重要ですが、生徒が学習の必然性を感じない状態で知識・技能だけを詰め込み、暗記をさせても、学ぶ意欲は湧かず、定着にはつながりません。「知りたい」「面白い」と思ってこそ、生徒は夢中になって繰り返し取り組みます。ですから、授業ではまず単元の内容に関心を持たせた上で語彙や文法などを指導し、単元の内容について自分が考えたことを表現する言語活動を通じて知識・技能を習得させるようにすれば、高校入試で合格点を取る指導とは両立できます。

——コンテンツからアプローチするのは、どういったことでしょうか。

**田尻** 例えば、「公民権運動」を扱っている単元の場合、生徒もニュースで見聞きした“Black Lives Matter”<sup>\*1</sup>を取り上げることが考えられます。アメリカでは市民の平和的なデモの一方で暴動や略奪が起きることがあり、その要因が教科書に書かれた歴史やグローバル化した現代社会にあることなどを知れば、生徒の中で教科書の内容が実感を伴ってつながります。そうすれば、教科書の英文が単なる記号ではなく、意味のある言葉として受け止められるようになるでしょう。

生徒の心を引きつけるのは、コンテンツの中身です。教科書本文の一つひとつの内容がいかに興味深く、自分にも関係する内容であるかを伝えましょう。英語の歌や映画、ニュースなどから生徒が引きつけられそうな情報を探して提示し、外国の人とやり取りしたいと思わせれば、生徒の心に火がつけます。そのために、目の前の生徒が何に関心を持っているかをもっとつかむ必要があります。

新学習指導要領の総則には、教科横断型学習の重要性が指摘されていますが、英語の教科書はまさに教科横断型のコンテンツになっています。英語の学習を通して、同じ景色を違う窓から見ることにつながるのです。

#### 2021年度の指導の留意点

### 習熟には音読が重要 ICTも有効に活用を

——反復練習の重要性を指摘されましたが、学習内容が増える4月からは、反復練習が一層重要になりそうです。

**田尻** 言語学習の基本的な流れは、次のようになります。

①理解 キーセンテンスや教科書本文の意味構造を理解する。

②暗記（習熟） キーセンテンスや教科書本文の音読、筆写、黙読、聞き取りを繰り返して習得する。

③応用 キーセンテンスや教科書本文を応用して会話文を作ったり、続きを書いたりする。

①に挙げた、キーセンテンスや教科書本文の意味構造を習得していなければ②暗記や③応用はできませんから、①理解は重要です。また、②暗記のための音読も重要な活動です。ただ、「指導なき音読」は、英語力を上げません。音読は、単語レベルでは、「文字の音声化」「アクセント」、文レベルでは、「ストレス・ピッチ」「イントネーション」「区切り」「感情移入」、そして「連結・同化・脱落・崩れ」という7つの要素が複合的に展開される活動です。その7つを指導せずに音読させれば、ネイティブの音読と乖離が生じ、リスニングができない状況が生まれてしまいます。

最近、音読の正しさを測るソフトウェアが開発されていますので、それらを使えば生徒の音読の正確さが分かります。簡易的なチェック方法には、タブレット端末やスマートフォンのメモ機能の活用が挙げられます。英語を読み上げて音声入力し、それが正しい英語として文字化されれば、発音は正しいというわけです。

また、文字を音声化するだけの音読では、英語力は向上しません。文字・意味・音声三位一体となっていない

\*1 アメリカで始まった、アフリカ系アメリカ人などに対する近年の人種差別抗議運動のこと。

いからです。サイトトランスレーション\*<sup>2</sup>や「語順表指さし音読」など、意味を音声化する音読を加えましょう。

— ICTを有効活用することが英語力のアップにつながるのですね。

田尻 学習の進度は生徒一人ひとり

で異なります。最初は同じプリントを使ったとしても、それが終わった生徒は先に進める教材が、できなかった生徒は前に戻って学習できる教材があれば、どの生徒にとっても有意義な授業になります。そうした教材

を常設する専用の英語教室を校内に用意できればよいですが、それが難しくても、デジタル教材が個別最適化された学びを後押ししてくれます。

生徒同士の学び合いも、生徒個々の習熟度に応じた学習となり、学力上位層が下位層を引き上げることでクラス全体の英語力の底上げにつながると思います。

図 授業づくりと授業見学の視点

教科指導に関する観点 (黒色のペンでメモ)

- 1 活動は知的で楽しさがあるか
- 2 発問・指示が効果的であるか
- 3 教材や教具は、児童生徒を引きつけているか
- 4 教材や教具を、適切に使用していたか
- 5 教員は、児童生徒が分かっていないところやできていないところを見つけ出しているか
- 6 児童生徒が分かるようになるため、できるようになるための的確なアドバイスや支援を教員がしているか
- 7 時間配分は適切か
- 8 説明は効果的か
- 9 板書は効果的か  
(板書の目的)
  - 教員が重要だと思ふ情報を伝える (プリントで済ますことができるし、写させたものをあとで使わないと意味がない)
  - 解答・解法を共有する (プリントで済ますことができるが、答えにたどり着くステップを1つずつ視覚的に確認する価値はある)
  - 児童生徒の意見を整理し、次の発想を促す (プリントでは済ませられない)
- 10 教員の知識・技能にミスはないか
- 11 授業の結果、児童生徒の技能や学力の向上が見られたか

全教科に共通する指導技術 (青色のペンでメモ)

- 12 指名に意図が感じられるか
- 13 全体発表は本当に必要か  
(全体発表の目的)
  - 解答・解法を共有する (聞き手が「なるほど、そうやるのか」とか「あった！」と思う)
  - 異なる意見を鑑賞する (聞き手が「確かにそれも正解だ！」と思う)
  - 児童生徒が元の活動に戻りたくなる (聞き手が「そうやればいいのか、先生、もう1問出してください」とか、発表を聞いて「あ、もう言わないで、先生、続きをやっていいですか」と言って活動に戻ろうとする)
- 14 個々の児童生徒の活動の時間が確保されているか
- 15 学習様式の選択は正しかったか
- 16 教え合い、学び合いのための仕かけがあったか
- 17 上位層が満たされていたか
- 18 上位層が説明を補足したか
- 19 教員が我慢しているか
- 20 児童生徒の間を回る時、意図を持って回っているか
- 21 学校でしかできないこと、チーム・ティーチングでしかできないことをしているか
- 22 教員が児童生徒から学ぼうとしていたか

生徒指導に関する観点 (赤色のペンでメモ)

- 23 児童生徒一人ひとりをしっかり観察しているか
- 24 児童生徒の互助システムはつくられているか
- 25 しつづけるべきことを妥協していないか
- 26 児童生徒のつぶやき、発言、行動に気づき、的確に対応しているか
- 27 児童生徒が全員見られるように、視野を広くして観察しているか
- 28 児童生徒は教員を受け入れ、授業に期待し、教員を支えようとしているか

教育委員会の役割

ポイントを押さえた授業見学で核心を突いた助言を

— コロナ禍で、教育委員会は学校への支援が思うようにできません。限定的な学校訪問やリモートで、どんな支援ができるでしょうか。

田尻 限られた機会での確に支援するには、ポイントを押さえた授業見学が必要です (図)。特に大切にしたいのは、人間教育の中の英語教育として包括的に捉える視点です。英語の授業は、英語の知識・技能のみを習得する場ではありません。生徒が社会で活躍する人物となるように、得意や長所を自覚させ、豊かな人間性を育もうとして授業をする教員と、教科書の記載事項だけに意識が向いている教員とでは、授業の質が異なります。その視点で授業を見れば、核心を突いた助言ができるでしょう。

指導助言を直接行えない場合は、図のリストを学校に渡し、教員同士でチェックし合うだけでも効果的です。

近い将来、知識・技能の指導や学習評価は、AIが担うようになるはずですが、そうした時に教員がすべき役割は、生徒が自分で学び続けられるように、寄り添って励まし、学習の仕方をアドバイスする「コーチング」だと考えます。それは今でも既に求められていることです。生徒を伸ばすのが教員の仕事です。そこに力を尽くす先生方を、私も支援していきます。

田尻教授のウェブサイト「田尻悟郎の Website Workshop」には、上記に加えて、田尻教授が実践・蓄積してきた指導のヒントが紹介されている。 \* 田尻教授提供資料を基に編集部で作成。

\* 2 英文を、意味のかたまりごとに区切り、前から訳していくこと。

# 指導計画、指導案、学習評価をセットで提示 授業の質向上と、目標・評価の一体化を図る

## 岐阜県 岐阜市教育委員会

2004年度から市内すべての小学校で英語教育を実施してきた岐阜県岐阜市。同市教育委員会は、全学年の年間指導計画と毎時間の指導案を作成し、指導の平準化を図ってきた。2020年度は新学習指導要領に対応した内容に改訂。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたポイントや学習評価の計画も示し、現場の授業づくりを支えている。

### 岐阜県岐阜市 プロフィール

◎清流長良川と織田信長公ゆかりの岐阜城がそびえる金華山を擁した緑豊かな城下町。長良川の鶺鴒が全国的に有名。2015年4月、『信長公のおもてなし』が息づく戦国城下町・岐阜」が、文化庁の日本遺産第1号に認定された。

人口 約40万7000人 面積 約204km<sup>2</sup>  
市立園・学校数 幼稚園2園、小学校46校、中学校22校、特別支援学校1校、高校1校 児童生徒数 約3万人  
電話 058-214-2193 (学校指導課)  
URL <https://www.city.gifu.lg.jp/3040.htm>

### 自信を持って指導できるよう 子どもとの対話例も示す

岐阜県岐阜市は、2004年度、構造改革特区制度を利用し、小学1・2年生は「英語活動」、小学3～6年生は「英語科」として、小学校での英語教育を始めた。現在は、全学年で「英語科」とし、授業時数は、小学1・2年生は年間18時間、小学3・4年生は年間35時間、小学5・6年生は年間70時間を確保する(図1)。全市立小学校にEF(小学校英語指導協力員\*)またはALTを配置し、小学1・2年生は全授業、小学3～6年生は全授業時数の約半分を担当とEF・ALTのチーム・ティーチングで行う。授業は、同市教育委員会(以下、市

教委)が独自に作成する「コンパス・カリキュラム～指導と評価の計画～」(以下、CC)を基に進められる。CCは、教科書の内容に準じた年間指導計画と評価の計画、全授業時間分の授業内容・学習状況を見届ける視点などを記した指導案で、小・中学校の全学年・全教科分を作成している。学校指導課の鹿嶋成子副主査は、英語科におけるCCの意義を次のように説明する。

「市外から本市の小学校に赴任して初めて英語を指導する教員もいる中、CCを参照すればすぐに授業づくりができるようになっていきます。CCは、指導の平準化を支え、子どもが身につける英語力を保障するものです」

CCを作成するのは、「授業・評価改善委員会」の委員を務める市立小・中学校の教員だ。英語科の場合は、小・中合同の英語科部会を開いて9年間の系統的な指導計画を立てた上で、委員が分担して指導案を作成した。

「英語を専門としていない教員や指導経験が浅い教員でも自信を持って授業ができるよう、英文



学校指導課 副主査  
**鹿嶋成子**  
かしま・せいこ

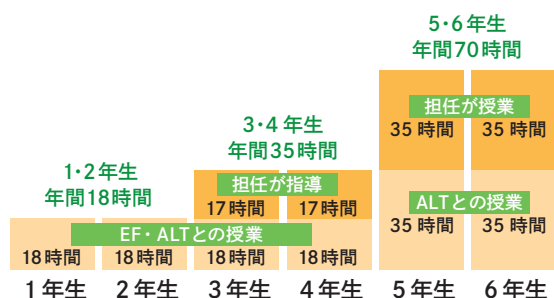
岐阜県内の公立中学校教諭を経て、2017年度から現職。

などを具体的に記載しています。例えば、好きな動物をテーマにしたスモールトークでは、“Look at this. What's this?” “These are dogs. I like dogs.” “I have 2 dogs in my house.”といった、子どもとのやり取りを例示しました。もちろんこれは一例であり、子どもの実態や授業進度に応じて、自由なアレンジを推奨しています(鹿嶋副主査)

CCは、学年ごとにまとめた冊子と、全学年分のデジタルデータを収録したDVDを各校に配布した。教員が授業で実践してよかった点や改善点を冊子に書き込んで、独自の指導計画にして活用したり、デジタルデータを利用して自校の状況に応じた独自の指導案を作成したりする学校もある。

「CCを基にEFやALTとの打ち合わせを行うなど、授業準備が効率化できたという声を、先生方から聞いています」(鹿嶋副主査)

図1 岐阜市立小学校の英語科の年間授業時数



\* 岐阜市教育委員会提供資料を基に編集部で作成。

\* 1 母語でなくても英語が堪能な市内・近隣在住の外国人を「小学校英語指導協力員」として市が雇用し、小学校に配置している。EFは、English Friendの略。

図2 「コンパス・カリキュラム～指導と評価の計画～」小学校英語科の記載項目の例

指導案	単元名	第2時/4時間
本時のねらい		
本時の評価		
特別に準備するもの		
学習活動	指導・援助	留意点・学習状況を見届ける視点
1 Greeting Hello. How are you? How's the weather today? What day is it today? What's the date today?	・前時に答えることに自信がなかったり、つまずいていたりする時には、「天気」「曜日」「月」の言い方を簡単に練習する。 【Small Talkの進め方】 ① 写真などを見ながら、教師が自分の話しかけを促す。	・慣れたら係を中心に、英語で聞かせることも
2 [Let's Sing]		【ICT】
3 Small Talk 【テーマ】 「○○」について	ウオームアップ、メインの学習活動、振り返りまでの流れ、活動内容を例示。クラスルームイングリッシュや、子どもとのやり取りで、担任が使える英文を具体的に例示している	主体的な学び、対話的な学び、深い学びの手立てを例示
4 [Do you know?]		【主・対・深の実現に向けて】
5 [Challenge]		【学習状況を見届ける視点】
6 [Challenge]	学習評価のうち、「学習状況を見届ける視点」を明記。「評価の計画表」と関連づけている	【場面・方法】
7 Comments		【主・対・深の実現に向けて】
8 Greeting		【学習状況を見届ける視点】

**評価の計画表**

単元名: \_\_\_\_\_

単元のねらい: \_\_\_\_\_

【単元の評価規準】

【単元評価のねらい等】

評価の手法を例示

各授業において、該当する「学習状況を見届ける観点」がある場合は「○」、「名簿に記録として残す観点」は「◎」とし、いつ、どの評価を行うかを例示

**チャレンジトーク(パフォーマンステスト)の実施要項**

1. 目標

2. 学習指導要領との関連

3. テーマ(さらさらはなそう！)課題

テストの目標、学習指導要領との関連、テストの課題、関連する単元などを例示

「関心・意欲・態度」は個人内評価であるため、「◎○○」で評価し、「内容」「英語の正確さ」「対話の継続」は3段階で評価。それぞれの基準を例示

\*岐阜市教育委員会提供資料を基に編集部で作成。

## パフォーマンステストの問題例や評価基準も提供

2020年度は、小学校の新学習指導要領の全面実施に伴い、小学校のCCを大幅に改訂した。年度内に各校に配布し、2021年度から運用を開始する。改訂のポイントは、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた手立てや、学びを深めるためのICTの活用方法を盛り込んだことだ(図2)。「本市では、子ども1人1台のタブレット端末の貸与が昨年9月に完了しました。今後は、子どもの学びの場面でいかにICTを活用するかが課題です。そこで、CCには、ICTを活用して新学習指導要領の趣旨を実

現する授業の具体例を明記しました。CCを通じて、ICTの活用場面と活用法を具体的にイメージできるようにすることで、英語科の活動の幅が広がり、子どもの学びが深まることが期待できます」(鹿嶋副主査)

例えば、子どもがタブレット端末で思い思いに撮影した写真で、Show & Tellの活動を行う。また、スピーチの活動では、学習前と学習後のスピーチをタブレット端末で撮影して比較することで、子どもは自身の学習の成果を実感し、教員は学習評価に活用するといった具合だ。

学習評価については、単元ごとに「評価の計画表」を作成。評価規準と、授業ごとの「学習状況を見届ける観点」「名簿に記録として残す観点」及

び評価方法を示した。さらに、指導案には、「評価の計画表」で示した学習評価をどの学習活動で行うのかを記載した(図2)。

「新学習指導要領では、記録として残す評価は単元や題材のまとまりごとに行うとされていますが、多くの教員がその方法で評価をした経験がありません。そこで、英語部会で話し合っ

て学習評価の方針を決め、『評価の計画表』には、各授業において、学習評価の3観点のうちどの観点を、『学習状況を見届ける観点』や『名簿に記録として残す観点』で評価するのかを、評価の方法と合わせて一覧表にしました」(鹿嶋副主査)

パフォーマンステストとして行う「チャレンジトーク」も年間指導計画

図3 「英語力アップ『岐阜モデル』」(抜粋)

技能別	目標	技能パート別	岐阜市の強み◎弱み△	自校の強み◎弱み△	意識したい指導事項	ネクストアクション(例)	2021年2月実施した指導	2021年2月効果があった指導
Listening		A 写真イラスト説明問題	◎	英語4技能検定の結果を基に、自校の強みと弱みを分析		目的や場面や状況などを明確にした、簡単なやり取りを行う 生徒に、聞いたことをリポートし、分かったことを自分の言葉で伝えることを促す 写真やイラストを用いた自由記述: 対話活動の際に、生徒に関わって自分のことを付け足して話すように促す		
		B 会話応答問題	△			目標達成に向けた具体的な指導改善を明記。各校の課題に応じたアクションの記入欄も設けている 内容に		左のアクションを実施した項目に○、実施して効果があった項目は◎をつける

Listening、Speaking、Reading、Writingの4技能について、課題を分析し、指導改善を具体的に記す。  
\*岐阜市教育委員会提供資料を基に編集部で作成。

の中に組み込み、実施要項と提示するテーマ、児童に渡す評価シートを作成した。実施要項には、テストの目標や学習指導要領との関連、評価基準などを明記(P.13図2)。さらに、目標を具現化した子どもとのやり取りの英文も例示し、どのような英語表現が使われていればA評価なのかを判断できるようにした。そして、子どもへフィードバックする評価シートは、学習意欲を高めるものとして重視し、子どもが受け取ってうれしそうと思えるようなメダルを模したデザインにするなどの工夫をした。

『「チャレンジトーク」』によって記録する評価の材料がそろうため、評価に対する説明責任が果たせます。CCは、指導の平準化や授業準備の効率化だけでなく、授業の『ねらい』『学習活動』『学習評価』を一体化して捉えられるようにしていることが最大の特徴です(鹿嶋副主査)

### エビデンスを基に各校で指導改善の方針を検討

2021年度は、中学校の新学習指導要領の全面実施に合わせてCCを改訂する予定だ。その際の課題の1つは、中学校の英語の授業での言語活動をより重点化することにある。2019年度、中学3年生に実施した英語4技能検定「GTEC」\*2では、CEFR\*3のA1レベル相当が82.1%に上った。

小学1年生から英語に親しみ、小・中9年間の英語学習を積み上げてきた成果だと捉えているが、まだ改善の余地があると、鹿嶋副主査は語る。

「各校がエビデンスに基づいて生徒の学習状況に応じた指導をしていることが、検定のスコアにも表れています。ただ、中学校の授業を見学すると、言語活動をより充実させることができると感じています。文法の正確さも重要ですが、言語活動を通じて学ぶことが、社会で生きて働く英語の習得につながります。CCに言語活動を盛り込むことで、それを伝えていきたいと考えています」

指導改善の方向性は、2019年度の「GTEC」の結果を踏まえてまとめた「英語力アップ『岐阜モデル』」として各校に提示。2020年度版は、前年度の内容に各校から集めた効果的な指導を加えて作成した(図3)。各校は、2020年度に実施した「GTEC」の結果を踏まえた指導改善の方針を項目に加え、実施したアクションには○を、実施して効果があったアクションには◎をつけて、年度内に報告書として提出する。「GTEC」の結果を分析しながら、どんな指導に効果があったか、効果がないものは課題は何かを、英語科の教員同士で検討し、2021年度に向けて指導を振り返るねらいがある。

小中連携の推進も指導改善のポイントだ。

「小学校の教員は、言語活動を通じて英語の音に触れさせながら、学習の定着を図る指導がとても上手です。一方、中学校の教員は、単語や文法などの正確さの指導に長じています。小・中が互いの授業を見学し合うことで、よさを吸収し合い、小・中のつながりを意識した指導ができることを期待しています」(鹿嶋副主査)

コロナ禍の影響で、授業では対話型の活動が制限されている。そこで、ICTを活用し、オンラインで学校間をつなげた学習活動も検討中だ。例えば、小学6年生が中学生に中学校の授業や部活動について質問するといった活動も、1小1中方式で小中連携を行う学校から始めれば可能ではないかと、鹿嶋副主査は考えている。

市教委でも、この1年間、学校訪問が十分にできず、各校の状況を把握した上での支援が難しかった。コロナ禍が少しでも落ち着いたなら各校を訪問したいと、鹿嶋副主査は語る。

「英語の授業では、コミュニケーションの1つとして表情を大切にしてきましたが、マスクで顔が覆われてしまい、意思の伝えにくさを感じていたと思います。だからこそ、マスクが不要になった時に、表情が見えることの素晴らしさを実感するはずです。コロナ禍のすべてをマイナスと捉えず、子どもが前向きに学びに向かえる指導を、先生方が実現できるよう支援していきたいと思っています」

\*2 ベネッセが提供する、スコア型英語4技能検定。 \*3 ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages)の略称。語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会が発表。A(基礎段階の言語使用者)、B(自立した言語使用者)、C(熟達した言語使用者)ごとに2レベル、計6レベルが設定されている。

# 目標を明確にしたプロジェクト型授業で、自ら考え表現できる「使える英語力」を育成

## 東京都 国分寺市立第一中学校

東京都国分寺市立第一中学校は、英語の4技能5領域をバランスよく育てることを目指し、レッスンごとに目標となるタスクを設定したプロジェクト型授業を全学年で実施している。指導内容も精選し、講義形式ではなく、生徒が自ら考えて表現する機会を数多く設けることで、高校入試にも対応できる力を育成している。

### オリンピックをテーマに 自分の思いを英語で表現

2020年12月中旬、東京都国分寺市立第一中学校の3年生は、相沢秀和先生とALTのチーム・ティーチングによる、スピーキングとライティングの授業を受けていた。既に教科書の学習は修了しており、高校入試を意識しながら「使える英語力」を身につけようと発展的な学習に取り組んだ。

取材日の授業のテーマは、東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京五輪）。生徒は、ワークシートに示された①Picture Describing、②One Minute Chat、③One Minute Speech & Word Counter、④Answer this question in three or more sentencesの4つのタスク（P.16図）に取り組んだ。まず①では、五輪のマークに「TOKYO OLYMPIC 2020+1」と描かれた絵を見て思ったことを3文以上で書く英作文に取り組んだ。②では、ペアワークで東京五輪が楽しみかどうかを話し合い（P.17写真1）、③では、ペアの相手に東京五輪の1年延期をテーマに1分間でスピーチし、聞き手は使われたワード数を数えた。④では、②や③で話したことを踏まえ、東京五輪の延期について自分の考えを英文で書いた。

授業はほぼ英語で行われ、各活動の間に行われた中間指導では、伝え

たかったけれどもうまく英語にできなかった表現について、クラス全体で考え、共有することに時間を割いた。

タスクの中で、生徒は自分が知っている単語やジェスチャーを使って懸命にALTに質問。「心を一つに」は「We will be all behind our Olympics.」、「3位決定戦」は「Third place play-off」といった表現例が示されると、「そう表現すればよいのか」と納得した様子を見せた。

「ALTとのやり取りを通じて、新たな語彙や表現を獲得し、また自分の知識を駆使して考えを伝えられた喜びを体験することで、積極的に英語を使おうとする姿勢を生徒に育みたいと考えています」（相沢先生）

相沢先生は、ALTが複数の表現例を示すたびに板書した（P.17写真2）。

「印象に残る表現や知りたいと強く思う表現は、生徒一人ひとりで異なります。板書した多くの表現から、自分が使いたいものを選んで獲得してほしいと考えています」（相沢先生）

授業の最後に行ったタスク④では、どの生徒の英作文も、タスク①で書いたものに比べて明らかに語彙数が増え、内容も深まっていた（P.17写真3）。授業を受けた生徒は、次のように話す。

「先生の説明を聞くだけでなく、自分たちが英語を使って活動することが面白くて、あっという間に時間が



指導教諭

相沢秀和

あいざわ・ひでかず

英語科。2014年度、東京都英語教育戦略会議専門部会委員。2017・18年度、東京都「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための研修」講師。

#### 学校プロフィール

◎ 1947（昭和22）年開校。確かな学力と豊かな心を育む教育を推進する。2019・20年度、東京都「持続可能な社会に向けた教育推進校」指定校。

校長 後藤正彦先生

生徒数 633人 学級数 19学級

電話 042-322-0641

URL <http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/smp/kurashi/1012309/1008645/1001229/index.html>

過ぎました。今まで知らなかった単語や表現を学べただけではなく、既に自分が持っている知識だけでも、工夫すれば様々な表現ができることに気づきました」

### 最初にアウトプットの目標を提示し、意欲を引き出す

同校の英語の授業は、例年、全学年ともに2学期末か3学期初めまでに教科書による学習を終えるため、年度末までは活動中心の学習を行っている。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響による臨時

☒ 取材日の3年生の授業で使用したワークシート

**Speaking 力 & Writing 力 養成**  
Tokyo Olympic Games in 2020 +1

**Task 1: Picture Describing**  
-Look at this picture and describe the situations in three or more sentences.

編集部注:この部分には、オリンピック・パラリンピックの五輪マークの下に「TOKYO OLYMPIC 2020 +1」とそえられた絵が入っています

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

**Task 2: One Minute Chat**  
First Question: "Are you looking forward to the Tokyo Olympic Games?"

**Task 3: One Minute Speech & Word Counter**  
Today's Topic: Tokyo Olympic Games in 2020+1

My Speaking WPM   W/M

**Task 4: Answer this question in three or more sentences**

The Olympic Games have been delayed for a year because of COVID-19. I am sure that Japanese people are having a hard time as hosts. I want to know how Japanese people think about the Olympic Games.

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\* 第一中学校提供資料を基に編集部で作成。

休業があったが、学習内容を精選し、進度をやや早めたことで、年間指導計画を大きく変えずに進められた。

タスクを設定したプロジェクト型授業は、教科書を中心とした1・2学期の通常の授業でも行っている。スピーチやプレゼンテーションなどのタスクは各レッスンの最後に行うが、その内容をレッスンの冒頭に提示。タスクの達成に必要な力をあらかじめ設定し、その育成に主眼を置いて毎時間の授業を構成する\*。生徒は、タスクの達成という目標を持つため、進んで英語を使い、よりよい表現方法を身につけようとする積

極性が、授業の中で自然と発揮されるという。

そうした授業を通じて培われた基礎・基本の力や積極的な学習姿勢は、発展的な学びや高校入試にも必要とされる重要な力だと、相沢先生は語る。

「生徒が『もっとよい表現をしたい』『自分の思いを伝えたい』と悩んだ点や疑問を積極的に提示することによって、ペアワークやALTとのやり取りが活性化し、クラス全員の学びが深まります。知識や技能を学び、正解を見つけるだけで満足するのではなく、状況に応じて自分で考え表現する力や姿勢があつてこそ、知識

や技能は『使える英語力』になります。それらは、外国人とのコミュニケーションで使う英語力はもちろん、高校入試で求められる英語力の伸長にも必要とされる力です」

プロジェクト型授業には、活動を多く取り入れながら、スピーディーに授業を進められるという利点もあると、相沢先生は説明する。

「教科書の本文から重要な文法や表現などを抽出し、それらを効果的に育成できる学習の内容や順序を検討して、授業ごとにワークシートを作成します。授業準備には多少の時間と手間がかかりますが、そうした作業を通じて、教員が事前に教科書全体や单元ごとの内容を理解して指導内容を精選するため、授業進度をコントロールしやすくなります」

ワークシートには学習の要点が整理されているため、教員は授業中の板書を簡略化でき、生徒はノートの代わりとするなど、ワークシートが授業の効率化を支えている。ワークシートは、教科団で検討して作成し、学年共通で使用するため、学習内容や進度、評価基準などを統一できるという利点もある。

## 英語を英語のまま理解し、表現できる状態を目指す

同校では、「使える英語力」を育むために、英語を英語のまま理解したり表現したりする思考力の育成も重視している。その一環として、教科書の内容理解の学習では、訳読を行わず、英文のまま読み取りをする。

まず、生徒には、教科書を読まずに授業に臨むように伝え、授業では、本文を読み上げるネイティブの音声数を数回流した後、本文を目で追いつながりながら再度音声を聴かせて、大まかな文意を捉える活動を行う。

「音読は内容の読み取りに効果的で

\* タスクを設定したプロジェクト型授業の概要や学習評価（ルーブリック評価）の方法は、本誌2018年Vol.2特集P.12を参照。



写真1 ペアワークでは、英作文を見せ合うとともに、表現に悩んだ点を相談したり、相手の誤った表現を指摘したりと、学び合う姿が見られた。

写真2 相沢先生は、ALTが例示した表現をすぐに板書。生徒はそれを見て、自分の英作文に使えると思った表現などを、ワークシートに書き込んだ。



写真3 授業の最後に、導入時と同じテーマで再び英作文を書いた。授業で学んだ単語や表現を使ったり、自分で表現を工夫したりと、生徒は思い思いに鉛筆を走らせた。

すが、テスト会場など、音読ができない場合もあります。目で文字を追いつながりながら音声を聴く状態は、いわば脳内で音読をする練習になるため、初見の英文でも黙読で内容を捉える力が育っていきます」(相沢先生)

大意を把握できたら新出の単語や表現を指導し、本文の趣旨の理解度を確認する。そして、音読を繰り返して理解を深めた後、最後に、本文の内容読解の問題に取り組む。

英作文の指導では、英語で考える力の育成を重視している。実は、2020年の臨時休業明けに、3年生に英作文の課題を出したところ、日本語を直訳したようなぎこちない英文が多く見られた。

「まず日本語で文を書き、直訳し、

分からない単語を和英辞典で調べる生徒が多かったです。そうした学習ばかりを積み重ねても即興的に英語で表現する力は育たず、実際のコミュニケーションに役立つ英語力は身につけづらいものです。そこで、最初に言いたい内容を考えてから、自分が知っている英単語や英語表現をあてはめていくイメージを持つように指導しています」(相沢先生)

そうした思考過程を育成するために、相沢先生は、あえて難解な語句が含まれる日本語の文を与え、和英辞典を使わずに要点を英文で説明する課題を出すことがある。生徒は、直訳できない言葉をいかに自分の知っている英語で表現するかを試行錯誤し、その過程で次第に表現を工

夫する力を身につけていく。

そのように和文を直訳しない英作文の基本を十分に定着させた上で、主語や動詞、目的語、副詞といった文法構造に目を向けさせて、より複雑で正確な英作文を書く指導を行う。さらに、和英と英和の両方が収録された辞典を持たせて、和英辞典で調べた単語は英和辞典でも必ず調べ直し、品詞や例文を参照して意味や用法が正しいかを確認させている。

## 新学習指導要領に沿って 指導内容を一層充実

新学習指導要領の全面実施後も、同校の英語の授業スタイルは変わらない予定だ。新学習指導要領で重視している、生徒が自分で思考し英語で表現する活動や、年間十数回行うパフォーマンステストの実施など、4技能5領域をバランスよく育成する指導を既に行ってきたからだ。語彙の学習でも、他校が使う教科書からも身につけさせたい語句を抽出し、通常より多くの語彙を指導しているため、新学習指導要領での単語や熟語の数の増加にも十分に対応できると考えている。

一方で、小中接続については、これまで以上に校区の各小学校の指導状況を確認し、生徒の学習状況に応じた支援の必要性を感じている。

「小学校で英語が教科化されたことで、学校間や教員間で指導の差が拡大するのではないかと危惧しています。その差を小さくし、中学校入学前に子どもを英語嫌いにしないように、私自身もできることは協力したいと考えています。また、新学習指導要領に沿ってワークシートの改訂を予定していますが、特に若い世代の教員の意見を取り入れながら、『使える英語力』の育成に一層努めていきます」(相沢先生)

# ICTを活用しながら、生徒がそれぞれの目標に向かって学ぶ

## 東京都・私立新渡戸文化中学・高校

生徒が自ら学びの目標や意味をつくり出し、「自律型学習者の育成」を目指す東京都の私立・新渡戸文化中学・高校。英語の授業においても、生徒それぞれが英語を学ぶ目的を持ち、それを実現するためのツールの1つとしてICTを活用している。

### 学びの目標や意味を 生徒自身がつくり出す

東京都の私立新渡戸文化中学・高校は、学校の最上位理念に「自分と社会の幸せをデザインできる『Happiness Creator（幸せ創造者）』の育成」を掲げ、教科学習を始めとした教育活動全体で「自律型学習者の育成」を推進している。それは、入学時に生徒の学習に対する意識を転換させることから始まると、統括校長補佐の山本崇雄先生は語る。

「生徒の多くが持っている『教科書を学ぶことが学習』という固定観念を、『やりたいことを実現し、なりたい自分になるために学ぶ』という発想へと導きます。勉強が得意ではない生徒も、自らが学びの目的や意味を見いだすことによって、主体性が芽生え、自律的に学び始めます。そのように、生徒が学びに向かうような授業をデザインすることが、学校や教員の役割だと考えています」

山本先生が担当する英語の授業も、そのビジョンを具現化するものになっている。例えば、年度始めに設ける「エンゲージメント」という期間は、生徒が明確な学習目標を持てるようにすることが目的だ。2020年度の中学1年生は、オンライン会議システムで海外の同世代の人たちと互いに自己紹介を行った。趣味や生活の話をするうちに、生徒は「自分のことを相手にもっと分かってもらいたい」「素敵な英語の表現を使いたい」といった思いを抱く。そのように、英語学習の目的を持たせた上で、年間の学習目標を「自己紹介を

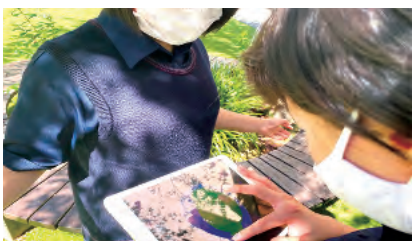


写真 英語と数学のクロスカリキュラムでは、英語と数学の両方をつなぐものを校内で探し、タブレット端末のアプリで表現する創作活動を行った。

アップデートする」と設定。以降、1年間かけて学ぶ英語の授業は、生徒が自身の自己紹介の力を伸ばすための時間となる。

「コミュニケーションをする相手に伝えて伝えたい内容は変わり、使う語彙も変わります。それらを習得するためには、どういった学びが必要なのかと生徒自身が考え始めたところで、語彙や文法の学習が欠かせないことを私たち教員が気づかせ、教科書やICT機器を使って学ぶ方法を教えていきます」（山本先生）

山本先生の授業では、教科書は数ある学習教材の1つという位置づけだ。例えば、「昨日の出来事を相手に紹介したいから、過去形の表現を教科書で学んでみよう」といった使い方を。適切な学習目標を設定することで、教科書「を」学ばなくても、学習指導要領が規定する指導内容は自然と修得できるといふ。

### 生徒の基礎学習と 創造性の発揮を支えるICT

生徒1人が1台持つタブレット端末も効果的に活用する。その1つは、デジタルドリルを使った語彙や文法の基礎学習だ。生徒個々の課題に応じた学びができるデジタルドリルは、基礎学習の効果が上がりやすいと、山本先生は語る。

「例えば、『単語が分からない』といっても、『意味を知らない』『書けない』『読めない』など、『分からない』内容は一人ひとり異なります。デジタルドリルはAI化が進み、生徒の解答から理解できていない点を判断した上で解説し、次の出題をしてくれるものもあります。個に応じた学びを実現しやすいのです」

さらに、創造的な活動では、タブレット端末が生徒の発想の具現化を支える。描画機能を使って英語の絵本を制作したり、作曲のアプリで英語の歌をつくったりと、タブレット端末によって生徒の表現の幅は広がっていく（写真）。

「ICT機器を使うと、紙と鉛筆のみの活動に比べて、驚くほど質の高い作品が生まれます。授業での活動を通じて、英



統括校長補佐  
山本崇雄

やまもと・たかお

東京都の公立高校等に勤務後、2019年度から現職。横浜創英中学高校の教育アドバイザーや日本パブリックリレーションズ研究所の主任研究員なども務める。

#### 学校プロフィール

◎子ども園、小学校、中学・高校、アフタースクール、短期大学を擁する総合学園。小・中・高で「自律型学習者の育成」を目指し、PBL型授業を中心としたカリキュラム編成で教育改革を推進している。

生徒数 中学校1学年1クラス、高校1学年3クラス

URL <https://www.nitobebunka.ac.jp/>

語力とともに、表現力や創造力、感性も磨かれていると感じます。よりよい作品をつくるには基礎学習が必要だと生徒自身が理解すると、それぞれの学びを意味のあるものと感じ、生徒は一層主体性を発揮していきます」（山本先生）

同校では、コロナ禍に伴う臨時休業中、タブレット端末を活用してオンライン授業を実施した。ウェブ上の掲示板のサービスを活用して、「音読に挑戦」「英語で自己紹介」「相手が幸せになる英語を考える」などの課題を山本先生が提示。生徒は、自分のスピーチを撮影した動画や英文の作品などを投稿する形で提出した。

山本先生は、4月に新学習指導要領が全面实施された後も、現在の指導方針を継続していくと話す。

「本校の指導方針の1つに、『教科を学ぶ意味や面白さを実感させるとともに、各教科の専門性を生徒一人ひとりの人生にどう生かしていくのか導く』という考え方があります。それは、新学習指導要領の方向性と重なります。生徒が主体的に学ぶ中で、教科の学習をいかに位置づけるかを意識しながら指導していくことが、今後ますます重要になるのではないのでしょうか」（山本先生）

研修のヒント

## 全国各地の授業を自宅や学校でも見られる！ 授業改善や、校内での指導力向上にも研修動画の活用を

動画配信サイトには、英語の指導に関するものも数多くある。文部科学省でも、YouTube公式チャンネル「mextchannel」の「外国語教育はこう変わる！」において、新学習指導要領における授業づくりのポイントをまとめた外国語教育に関する動画を配信している。実際の授業も動画で見ることができ、授業に関する解説もあるので、授業改善や指導力向上に向けた校内研修などでもぜひ活用したい。

### 動画のラインアップ

#### 「なるほど！小学校外国語」全4回（2020年度公開分）

全国の小学校教師から寄せられた質問等を基に、①言語活動 ②読むこと 書くこと ③学習評価 ④教材の活用 について解説。各動画の概要欄から、内容に関連する資料をダウンロードすることで、資料を確認しながら視聴を進めることができる。



対談や簡単なワークショップ形式により、小学校外国語における指導のポイントを分かりやすく解説

#### 「Team Teaching in Elementary School」

ALT（外国語指導助手）とチーム・ティーチングを行う際のポイントについて、英語で解説。この動画の他にも、ALT 研修用として、日本の教育の仕組みや学習指導要領、ALT に期待することや授業での役割について英語で解説した動画を複数公開している。



小学校に勤務する現役 ALT との対談により、授業準備の仕方や、求められる ALT としての役割を ALT の視点から紹介

#### ▶ その他のラインアップ

##### 「外国語教育はこう変わる」

小・中・高等学校における、新学習指導要領に基づく授業改善のポイントを解説。

##### 「外国語の指導におけるICTの活用について」

小・中・高等学校の外国語指導における、ICTの効果的な活用事例を紹介。

#### 視聴された先生からの

声

- 講演だとメモをとることに必死だが、動画だと途中で止めて考えたり、繰り返し聞いたりできるのがいい。
- コロナ禍の影響で研究会等が中止となる中、学習指導要領を踏まえた内容を学べる機会があるのはありがたい。
- ALT用の動画をALTと視聴した。ALTが、期待されることや役割を理解したことで、一層良い授業ができるようになってうれしい。

アクセス方法は  
こちら！

右の2次元コード、下記のURL、キーワード検索のいずれかで「mextchannel」のトップ画面にアクセス。その中にある「外国語教育はこう変わる！」に、動画のラインアップがある。

<https://www.youtube.com/user/mextchannel>

文科省 外国語 動画 検索



### 動画配信への思い 校内研修等でも活用しやすい動画を配信することで、教師の学びを支援します

新型コロナウイルス感染症の拡大により、日々の指導面での活動の制約に加え、研修会の減少により、授業実践を通じた情報が得られずご苦労されているのではないのでしょうか。こうした状況下でも、オンラインの活用により、教師の学びの機会は増え、学びの自由度も高まります。外国語教育推進室では、先生方からのニーズを踏まえ「外国語教育はこう変わる」の動画配信を強化しています。特に、今年度公開した「なるほど！小学校外国語」シリーズでは、全国の先生方から寄せられた質問を基に構成し、分かりやすく解説をしています。今年度から新しく始まった小学校外国語科の授業に悩んだりされている先生方は、授業づくりのヒントが得られるはず。ぜひ、ご視聴ください。



文部科学省  
初等中等教育局  
外国語教育推進室  
(教育課程課外国語  
教育推進PT)  
事業推進係長  
**荒川優子**  
あらかわ・ゆうこ

## Edvation × Summit 2020 Online 開催

# 教育の未来を築くイノベーションに向けて 産官学民が語り合う

コロナ禍においても学びを止めず、教育改革を推進しようと、EdTechグローバルカンファレンスイベント「Edvation × Summit 2020」が、2020年11月、オンラインで開催された。本稿では、産官学民の多数のパネリストが登場した全体概要と、学校教育における積極的なICT活用で全国から注目されている埼玉県戸田市・熊本県熊本市・富山県高岡市の教育長によるラウンドテーブルの内容をレポートする。

AI（人工知能）やIoT\*1などの先端技術を活用したIndustry 4.0（第4次産業革命）が叫ばれる中、新型コロナウイルスの感染拡大の影響も加わり、社会システムのあらゆる面において革新的な変化が求められている。教育もその1つであり、子どもの学びを止めず、よりよい学びの実現に向けて何ができるかを、社会全体で考える必要がある。

そうした課題の下、EdTechをテーマにした国際カンファレンスイベント「Edvation × Summit 2020」が開催された。「Edvation」は「Education」と「innovation（革新）」をかけた造語で、同イベントは、「新しい教育の選択肢を広く社会に周知すること」と「既存概念にとらわれない、教育イノベーターを生み出すこと」を目的として、2017年度から毎年開催されている。

第4回である今回は、オンラインで開催され、3日間にわたって30のセッションが実施された。平井卓也デジタル改革担当大臣を始めとして、各省庁、教育委員会、学校、研究機関、NPO法人、国内外のICT企業などから、最新の実践報告や新たな提案がなされた。「GIGAスクール構想」によって今後一層加速していくICT教育をより効果的に実現していくために、産官学民それぞれの立場から様々な意見が出され、熱い議論が交わされた。

## Edvation × Summit 2020 Online 概要

◎開催日時 2020年11月3・4・5日 ◎開催方法 オンライン

◎主催 Edvation × Summit 2020 実行委員会、  
一般社団法人教育イノベーション協議会

◎共催 経済産業省

◎後援 文部科学省、総務省、東京都、高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部

◎プログラム



	プログラム *原題をそのまま掲載	登壇者
11月3日	オープニング	N
	正子の部屋 現代の技術と教育から紐解く「100年生きる」とは？	N・企
	未来の教育イノベーター会議	学・企・官
	「教育×クラウド」～日本のこれからの教育のために～	学・企・官
	ウィズコロナ時代における学校のリデザイン～学校の最適化とリーダーシップ～	学
	GIGA スクール構想の先にある教育とは？	学・企
	STEAM 教育におけるアートの役割～なぜ、今「STEAM」なのか？～	学・企
	デジタル教科書先進国、韓国におけるEdTech マクロトレンドとベンチャーの取り組み	研・企
	EdTech 先進国、中国リーダーたちによるEdTech 化のススム	企
	次世代のための教育～個別最適化と21世紀型スキル～	企
11月4日	ソサエティ5.0の歩き方～ニンゲンとキカイの「間」にあるものとは？～	学・N
	NowDo が目指す教育改革～本田圭佑が考える、生きる為に必要な能力とは？	企
	社会と乖離した学校、子供たちはいかに社会とつながるか	学・企
	教育現場における教育者とAIの役割とは何か？	学・企
	【無料公開】「未来の教育」中間報告会	学・研・N・企・官
	with コロナ時代の時間と場所に縛られない学びとは？	研・企
	教育長ラウンドテーブル「GIGA スクール構想で変わる教育現場～生徒が教員を越えていく学びをめざして」	教委・企
	経済界も注目！学びのDXとは	研・企・官
11月5日	未来を変える英語教育	学・N・企
	Googler が語るGIGA スクール構想の先にある教育とAI	企
	話題の“令和の日本型学校教育”に、中教審委員が込めた想いとは？	学・N・企
	教育データ利活用の今とこれから	教委・学・官
	スタディ・ログの活用が始まった！個別最適化された学びへの挑戦	教委・学・企
	【無料公開】文部科学省 大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブ (Scheem-D)	学・企・官
	『ネクストノーマル、世界基準のイノベーター人材育成に向けて』～産官学で取り組むイノベーション・エコシステムへの取り組みとは～	学・研・企
	EdTech を活用した不登校児童・生徒との向き合い方～学校へ行かない選択と規制緩和の可能性～	学・企
	見えてきたオンライン授業の可能性～海外事例に学ぶ新しい授業のカタチ	学・企
	教育DX、紙からデジタルへ～デジタルペンが教育に何をもたらすのか～	学・企
イノベーターは教育に革新をもたらすのか～私達がEdTech スタートアップになったワケ～	企	
Edubate Live！教育新聞	学・N・企・官	

登壇者略称/教育委員会：教委、学校：学、研究機関：研、NPO・社団法人等：N、企業：企、省庁：官

\* 1 Internet of Things の略。スマートフォンやパソコンだけでなく、様々な物に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信したりして、自動制御や情報収集などを行うこと。

## 教育長 ラウンドテーブル

## GIGAスクール構想で変わる教育現場 ～生徒が教員を越えていく学びをめざして

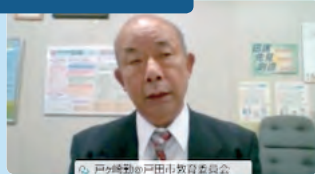
### ◎ICTでより豊かな学校教育に

2日目に行われた「教育長ラウンドテーブル」では、先進的なICT教育で注目されている埼玉県戸田市・熊本県熊本市・富山県高岡市の各教育長が、自市の実践を報告し、ベネッセ教育総合研究所の小村俊平主席研究員のファシリテーションの下、教育行政の観点からこれからのビジョンについて語り合った。

初めに、各市が目指すICT教育と実践状況について、3人の教育長が説明した。熊本市は、教員には1人1台、児童生徒には3人に1台の割合でセルラーモデルのタブレット端末を導入済みだ。遠藤洋路教育長は、「ICT導入の目的は、子ども主体で学び合い、教え合う授業をつくることにあります。その理念は、研修等を通じて市内各校と共有していますが、タブレット端末の活用状況は学校間に差があるので、市の教育センターが各校の活用状況に応じて、個別に支援をしています」と語る。昨春の臨時休業期間には、全国に先駆けてオンライン授業を実施。その成果の1つとして、不登校児童生徒の3～4割が臨時休業明けに登校できるようになったことを挙げた。今後、詳細な状況をタブレット端末を活用したアンケートで把握する予定だという。

高岡市は、2019年度、慶應義塾大学SFC研究所の協力により、同研究所の遠隔授業を全市立中学校と義務教育学校が受講した。2020年度には、同研究所とICTを活用した学び環境創造に関する研究開発の連携協力協定を締結。「昨春の臨時休業期間には、各校の教員が作成した授業動画を、地元のケーブルテレビ局の協力で放送しました。そうした地

埼玉県 戸田市教育委員会  
戸ヶ崎 勤 教育長



富山県 高岡市教育委員会  
米谷和也 教育長



熊本県 熊本市教育委員会  
遠藤洋路 教育長



ベネッセ教育総合研究所  
小村俊平 主席研究員



域の協力があつたからこそ、学びを進めることができました。昨年5月に実施したウェブ会議システムを利用したホームルームでは、対象とした中学3年生のうち約1割が、ICT環境が整わず参加できませんでした。公教育として、そうした生徒を支援しつつ、授業動画をいつでも必要に応じて視聴できるように準備を進めています」と、米谷和也教育長は現状を報告した。

戸田市は、70以上の産官学と連携して、変化する社会の動きを反映させた学校教育を推進している。「学校ごとに異なる団体と連携し、互いに高め合うことで得られたよい事例を市内の他校にも広げるという仕組みにしています。データ・サイエンスの考えも取り込み、指導力のある教員の経験や勘を言語化・数値化し、ほかの教員に効果的に継承できるようにもしています」と、戸ヶ崎勤教育長は語る。さらに、同市では、EBPM<sup>2</sup>を推進するシンクタンクを教育委員会内に設置。教育データ等を活用した授業改善を加速するために、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングも開始した。

### ◎重要なのはタブレット端末の導入後

「GIGAスクール構想」によって、特定の学校だけでなく全国すべての学校で質の高い学びを実現する重要性も、各教育長から指摘された。

遠藤教育長は、「学校ごとや教員ごとに存在する教育の差を、ICTの活用によって可視化することで、差を縮めて平準化することが期待できます」と語った。

戸ヶ崎教育長は、「ICTは、文房具のように使いこなすもの。本市では、SNSを利用して管理職等が学校を超えてつながり、情報共有に努めています。そうした取り組みが、教育の質の保障に結びついています」と、教員がICTを積極的に活用すべきとの考えを示した。

米谷教育長は、今後の課題は財源の確保だと指摘。「今回は国の財政支援によってタブレット端末の導入が実現しましたが、数年後には端末の更新時期が来ます。さらに、地方には、ICTの専門家がほとんどいません。よい実践を継続させる鍵は、企業や研究所などとの連携にあります」と語り、産官学民が連携して教育改革を進める重要性を示した。

\* 2 Evidence-based Policy Making の略。政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化した上で、合理的根拠（エビデンス）に基づくものとする事。

# フロントランナーに聞く 教育のnext

「これからは予測が困難な社会となる」と言われ続けてきたことが、新型コロナウイルスの世界的流行で現実のものとなり、私たちの前に突きつけられました。そうした状況下で、未来の社会を築く子どもたちの教育を、どのように描いていけばよいのでしょうか。教育の最先端で活躍する人たちへのインタビューから、次代の教育のあり方に迫ります。第2回は、「みんながつくる みんなの学校」を合言葉に「すべての子どもの学習権を保障する」学校づくりに校長として情熱を注ぎ、現在は講演や研修を通じて学校改革を支援している木村泰子先生に聞きました。

## 学校の最上位の目的は、学習権の保障 すべての子が自分らしく学べる場づくりを



大阪府 大阪市立大空小学校  
初代校長  
木村泰子

**きむら・やすこ** 大阪府生まれ。小学校教員を経て、2006年度から9年間、大阪市立大空小学校の初代校長を務めた。同校の日常を追ったドキュメンタリー映画『みんなの学校』は、全国公開され、大きな反響を呼んだ。定年退職後は、講演や研修で全国各地を訪れ、すべての子どもが同じ場で学ぶ大切さを伝え続けている。東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター協力研究員。著書に、『「みんなの学校」から社会を変える～障害のある子を排除しない教育への道～』（共著、小学館新書）、『10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方』（青春出版社）など。

### キーワード ①

#### 学力は、目的ではなく「結果」

—コロナ禍においても、オンラインでの講演や研修の講師を務められ、精力的に活動されています。全国の先生方にどのようなことを伝えていきますか。

**木村** 講演などはすべてオンラインでの実施で、画面越しの対話となりますが、先生方子どもたちへの思いをひしひしと感じています。昨春の臨時休業中は、学びを止めないためにはどうすればよいのか悩み、臨時休業後は、年度末までに教科書を何とか終わらせようと焦る—。その思いは十分に分かるのですが、遅れた授業を取り戻すことを気にしすぎて、最も大切な「子ども全員が、明日も元気に学校に来る」ことへの思いが置き去りにされているのではないかと思います。

大人が厳しい状況にある時、そのしわ寄せが来やすいのは、立場の弱い子どもです。家庭に居場所がなくなり、学校では詰め込むような授業に追われるとしたら、子どもは苦しむ一方です。教科書の内容を今すべて教えきれなくても、これからの授業の中で学ぶ必要が出てきた時に取り上げればよいはずであり、文部科学省もそれを認めています。

目の前にいる子どもが、今、最も必要としているのは何でしょうか。厚生労働省の発表によると、子どもの自殺が前年比で増えています\*。これは深刻な問題です。今は平時以上に、子どもの安心・安全を最優先に、誰一人も見逃すことなく見守り、行動すべきではないでしょうか。そういったことを、講演会では先生方にお話ししています。

—校長を9年間務められた大阪市立大空小学校では、まさしくそうした学校づくりに取り組まれたと思います。

\* 厚生労働省の資料を基に文部科学省が2020年12月に作成した資料「児童生徒の自殺の状況について」(<https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000707296.pdf>)を参照。

## 映画『みんなの学校』とは？

大阪市立大空小学校は、南住吉大空小学校として2006年4月に開校した（2014年に現校名に改称）。その初代校長を務めたのが、木村泰子先生だ。不登校児童がおらず、特別支援学級もなく、同じ教室でみんなと一緒に学ぶ、「すべての子どもに、学校での居場所をつくる」ことを学校づくりの方針に掲げ、「みんながつくる みんなの学校」を合言葉に、児童と教職員に保護者や地域の人々も加わって、学校づくりを進めた。



同校の1年間を追ったドキュメンタリーのテレビ番組「みんなの学校」は、同校の日常を通じて、公教育がどうあるべきか、保護者や地域が学校教育でどのような役割を果たすべきかなどを問いかけた内容が反響を呼び、2013年度文化庁芸術祭のテレビ・ドキュメンタリー部門大賞を受賞。その後、映画化され、2015年、文部科学省の特別選定作品に選ばれた。現在も全国各地で上映会が開かれている。

◎映画の詳しい内容や上映会については下記をご覧ください。  
<http://minna-movie.jp/>

**木村** 大空小学校では開校時から、学校の理念に「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」を掲げています。「学力の保障」を教育目標に掲げる学校が多いと思いますが、学力を保障しようとすれば、勉強のできる子が評価されやすくなります。そうすると、勉強のできる・できないが、個性の「違い」ではなく、優劣を伴う「差」となり、子どもたちを分断してしまいます。それが、自尊感情の低さにつながり、いじめや不登校の一因となっているのです。

学力をつけることは、学習の「目的」ではなく、学習した「結果」です。学力は高い方がよいですし、子どもが知識を身につけ、できないことをできるようにするために、授業を工夫することは重要です。しかし、公教育の最上位の目的は、どのような状況にある子どもも学習できることだと考え、「学習権の保障」を最も重視したのです。それは、当たり前のようにいて実現が難しく、後でお話しするように大空小学校では試行錯誤の日々が続きました。

## キーワード 2

## 子どもを育むのは子ども

—基本的な人権保障の前提となる学習権は、「人権中の人権」とも言われます。「学習権を保障」するために、大空小学校では具体的にどういった実践をしているのでしょうか。

**木村** 学力や家庭環境、障がいの有無などに関係なく、すべての子どもにとって、学校が安心できる居場所となることを目指しました。大空小学校にも、落ち着いて授業をつくれな子は何人もいましたし、子ども同士のトラブルも毎日のようにありました。そうした時に教員は、その子がなぜ教室にいられないのか、なぜ友だちをいじめてしまったのかに思いを寄せ、寄り添い、見えていなかった内面や背景を浮き彫りにして、子どもの悩みや家庭の問題に向き合うように努めました。そのように教員が寄り添ったからといって、問題がすぐに解決するわけではありません。それでも、子どもがありのままにいられ、思いを語れる場になっていけば、その子にとって学校は安心していられる場

## ●大空小学校の教育

たった一つの約束

自分がされていやなことは、人にしない、言わない

## 子どもがつける4つの力

- ・人を大切にする力
- ・自分の考えを持つ力
- ・自分を表現する力
- ・チャレンジする力

\*大空小学校のウェブサイトをもとに編集部で作成。

所になるのではないのでしょうか。

周りに迷惑をかけるからといって教室から排除したら、その子が増えつらくなるだけでなく、それを見ている子どもにも差別や偏見を植えつけることになりかねません。ですから、大空小学校には特別支援学級を設けず、多様な子どもが1つの教室で一緒に学ぶことにもこだわりました。—周りからは変わりなく見えても、心に傷を負った子どももいたと思います。そうした子ども一人ひとりと向き合うために、先生方には相当の覚悟が必要であり、負担も大きかったのではないのでしょうか。

**木村** 大空小学校の合言葉にあるように、私たちはみんなで学校をつくりました。「みんな」とは、子どもや教職員、さらには保護者、地域など、学校にかかわるすべての人たちです。校内にはいつも何人も保護者や地域のサポーターが歩いていて、子どもに話しかけています。そうした触れ合いを重ねるうちに、子どもは保護者や教員には言いにくい本音や悩みを、サポーターには打ち明けることもあります。それを教員とも共有し、子どもが抱える課題に学校全体で向き合っています。

そして、子どもを支えるいちばん身近な存在が、子どもです。子どもは、周りの子どもとの学びや遊びを通じて人間関係を築き、成長していきます。もちろん、子ども同士でぶつかり合うこともあります。そうした時こそ教員の出番です。教員は、どちらが悪いのかをジャッジするのではなく、双方の言葉を「通訳して」心の内を伝え合えるようにし、こじれた関係を解きほぐす役に徹します。

「自分がされていやなことは、人にしない、言わない」という「たった一つの約束」もつくりました。それを子どもも教職員も何よりも大切にし、約束を破ってしまった時は自分から自分のためにやり直しをします。私がやり直し第1号だったこともあり、校長室がやり直しの部屋になっています。約束を破った本人が、「自分がされると嫌だから、ほかの人にももうしない」と思い、同じことを繰り返さないためにどうすればよいかを考えて行動することが、安心できる学校づくりにつながり、その子自身の成長を促すのです。

### キーワード 3

## 「教えるプロ」から「学びのプロ」に

—コロナ禍によって教育活動に様々な制約がある中で、学校現場には新学習指導要領への対応が求められています。実践上のヒントはありますか。

**木村** 大空小学校では、「子どもがつける4つの力」として、「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」を大切にしています。新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」はまさしくこの4つの力に対応しています。新学習指導要領の趣旨は、社会で生きて働く力の育成にあり、それを実現させることはとても重要だと、私は捉えています。

ここで立ち止まって考えてほしいのは、子どもを主語にして学びを捉えることの重要性です。学びは、「教員が」教えるものではなく、「子どもが」学ぶものです。

例えば、研修で先生方に、「主体的に学ぶ姿」とはどのような姿かと質問すると、「自ら学ぶ姿」「自分の考えを自ら伝える姿」といった答えがよく返ってきます。しかし、それらは「自主的」な姿であり、「主体的」ではありません。両者の違いを説明すると、「自主的」とは、決められた事柄があり、それに自分から進んで取り組む行為です。学び

であれば、学習の目標や内容が決まっていて、それを保護者や教員に言われなくても取り組む状態といえます。一方、「主体的」とは、活動の主体が自分であり、目標を自分で考え、すべきことを判断する行為です。学びであれば、学習の目標や内容、手段などを自分で考え、判断して、進めていく状態を指します。

まずは、目の前の子どもが主体的に学ぶ姿や、対話的に学ぶ姿、深く学ぶ姿を具体的に思い浮かべてみてください。そして、どうすればその姿になるのか、教員間で語り合ってみるとよいと思います。

—子ども主体の学びの実現に向けて、学校をマネジメントする立場の方は何をすべきでしょうか。

**木村** 私は大空小学校の開校時から校長を務めました。開校1年目に「教えるのはやめよう」と先生方と話し合いました。教員は、子どもに「教える」ことが仕事だと捉えがちですが、子どもが学んでいる事実こそが教員に課せられた仕事だからです。

しかし、教員には「教える」ことが染みついている、意識を転換するのは容易ではありません。そこで、私は、子どもが「学ぶ」ことについて、日常的に職員室で雑談しました。4つの力は育っているか、10年後の社会で生きて働く力になっているか。それらが実現していなければ、改善策を考えました。学びの形は子どもの数だけあります。それでも、「子どもが学ぶ状態をつくられているか？」と問いかけ、自分たちを変えようと思いました。

そのように、教員は「教えるプロ」から「学びのプロ」になり、教員が学ぶ姿を子どもに示すことも大切です。子どもは、憧れの人ができること、その姿を目標に自ら学び始めます。子どもにとって身近な大人である教員の学ぶ姿を、学校生活を通じて示していく。たとえ失敗しても、「ごめん、やり直すから」と、自分を変えようとする姿をありのままに見せていくのです。管理職も同じで、子どもに対してだ

### ●主体的・対話的で深い学びの実現に向けて—「教えるプロ」から「学びのプロ」の集団に！

#### 木村先生からの問いかけ 1

学校は、教員が教える場所？  
子どもが学ぶ場所？

子どもを主語にして  
学びを捉える！

\*木村先生への取材を基に編集部で作成。

#### 木村先生からの問いかけ 2

子どもが学ぶ状態をつくられているか？  
目指す力が育っているか？

主体的に  
学ぶ姿とは？

対話的に  
学ぶ姿とは？

深く  
学ぶ姿とは？



けでなく教員に対しても学ぶ姿を見せることが大切です。

—日々の授業における教員の役割とは、何でしょうか。

**木村** 学校は、昨日できなかったことが今日できて、明日はもっと力を高めていくというように、子どもが成長していく場所です。そのためには、子ども主体の学びとはいえ、子どもにすべて任せればよいわけではありません。

教員の役割は、子どもの状態に応じた適切な目標を示すことだと考えます。目標が高すぎると、無理だと感じて最初から挑戦する意欲を持たず、逆に低ければ、力を持って余してしまいます。少し頑張れば達成できそうな目標を示し、そこに到達したら、また少し高い目標を示す。そうしたことは、高い専門性を持つ教員だからこそできるのです。

ただし、学びは一人ひとりで異なりますから、個々をしっかり見取り、1クラスに30人いたら30通りの目標の提示が必要となります。それを1人の教員が行うには負担が大きすぎますから、学校全体が1つのチームとなって複数の目で子どもを見取り、情報を共有することが重要なのです。



学びの主語は、子どもです。  
教員が教えるのが学びではなく、  
子どもが自ら学ぶのです。

キーワード 4

## 社会を築く一員という自覚を育む

—最後に、先生方へのメッセージをお願いします。

**木村** これまでお話したように、大空小学校では、学習権の保障を目指し、教科学力だけにこだわらない、社会で生きて働く力の育成を大切にしてきました。開校9年目には、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」で、全国1位の県の平均正答率を8ポイント上回る結果が出ました。さらに驚いたことに、無解答が全くありませんでした。大切にしてきた4つの力のうち「チャレンジする力」が発揮されたからだと思います。

社会で生きて働く力が高まれば、教科学力は結果としてついてくる。それは、大空小学校での実践を踏まえてはつきりと言えます。新学習指導要領が示すように、学校教育には、社会で生きて働く力の育成へと大きく舵を切ることが求められています。そうした今だからこそ、子どもたち

に真に必要なことを見つめ、実践するチャンスです。一人ひとりが自分を変える。その営みを全員が行えば、教育や学校を変えていけるはずです。

一生懸命にやったとしても、子どもの学びに結びつかないこともあるでしょう。そうした時は指導を自己評価し、若手であろうとベテランであろうとやり直すという姿勢を持ってください。私は退職間際まで「校長、今のはアウト」と同僚から言ってもらい、互いに自浄作用を高めていました。

教育は、社会をつくる原動力です。教育を受けた子どもが大人になると、収入や職業、社会的地位などに関係なく、すべての人が社会を築く一員となります。そうした自覚のある大人への成長を支えることが、義務教育9年間の重要な役割ではないでしょうか。

コロナ禍の今も、社会は未来に向けて進み続けています。その社会を築く人々を育む教育も、また進み続けなければなりません。10年後、20年後の社会を思い描いて、今、目の前にいる子どもに学ぶ大人になりたいものです。

木村先生とウェブ上で対話しませんか

### From the front-runner

木村先生から読者の皆様へのメッセージを動画でご視聴いただけます。

### To the front-runner

木村先生へのご質問や、本コーナーへのご意見・ご感想をお寄せください。木村先生へのご質問には、先生ご自身からの回答をウェブサイト上に公開します。質問内容は、本コーナーの内容に関するもののほか、映画『みんなの学校』や木村先生の著書に関するものも大歓迎です。

※ご質問内容によっては、公開を控える場合もございます。ご了承ください。

木村先生のメッセージ動画、  
質問フォームのアクセスはこちらから！

<https://berd.benesse.jp/magazine/board/booklet/?id=5566>

VIEW21 教育委員会版 検索

右記の二次元コードからも  
アクセスできます。▶▶▶



# ポートフォリオ の活用

新学習指導要領では、児童生徒の学習状況やキャリア形成について、自身の変容や成長を自己評価する手段としてポートフォリオの有用性が示されている。生徒主体の教育活動への転換を目指す新潟市立鳥屋野中学校では、まず学期単位や学校行事においてポートフォリオを活用し、生徒の主体性を磨こうとしている。

実践校

## 新潟県 新潟市立鳥屋野中学校



校長  
小川裕一  
おがわ・ゆういち



教頭  
内藤浩悟  
ないとう・こうご

### SCHOOL PROFILE

◎ 1947（昭和 22）年開校。市内でも有数の大規模校。生徒が毎朝、校旗を掲げる「旗揚げ」は、36年間の伝統を誇る。部活動も盛んで、バスケットボール部、水泳部、陸上部などに全国大会出場の実績がある。

校長 小川裕一先生  
生徒数 829人  
学級数 27学級（うち特別支援学級2）  
電話 025-285-7201  
URL <http://www.toyanojhs.city-niigata.ed.jp>

## メタ認知の機会を定期的に設け、自ら伸びる力を育む

新潟市の中心部に位置する新潟市立鳥屋野中学校は、2019年度、教育目標を変更して「未来を創る生徒」とし、その達成に向けた4つの重点目標と、鍛え育む7つの資質・能力を策定した（図1）。根底には、情報技術の進化、日本の人口減少など、社会の変化に応じた人材の育成を目指し、教育活動を生徒主体のものに転換するというねらいがある。

2020年度は、7つの資質・能力の具体化に取り組んだ。学校行事や学級活動などの特別活動がどの資質・能力を育むかを年間計画表に明記して、教員が生徒を支援・指導する際に、育成を目指す資質・能力をより意識できるようにした。そして、生徒に自己成長を促すため、ポートフォリオを活用した目標設定と振り返りの活動を3学年一斉に導入した。小川裕一校長は、取り組みのねらいにはメタ認知

能力の育成もあると語る。

「生徒が自身の状態を把握、分析した上で、高めたい資質・能力を自ら設定し、目標達成に必要なことを考え、それをやろうと決心して行動する。そして、自身の活動を振り返って、成果や課題を見いだす。たとえ目標を達成できなくても、その過程こそが学びなのです」

ポートフォリオ（図2）は、前期・後期と学校行事で活用し、学期の始まりや行事の練習開始前と、学期の終わりや行事終了後に、ホームルームで記入する。宿題としないのは、生徒が自己と向き合う時間を時程内で保障するためだ。

### ◎生徒と教育目標を共有

年度初めには、教育目標の内容やポートフォリオの目的などを、学校案内\*（写真1）を活用しながら全生徒に説明する。学校案内では、教育目標、重点目標、7つの資質・能力について、それらを設定した背景や自校の教育活動の変遷を、生徒と先生の対話形式で分かりやすく解説している。生徒がペアで生徒役と先生役になり、学校案内を読み合ったクラスもあるという。

### ◎記入例は示さず、生徒が自由に記入

ポートフォリオは記入例を示さず、生徒が自由に書けるようにした。内藤浩悟教頭は、その理由を次のように語る。「実は記入例を用意したのですが、教員間で話し合い、配布を止めました。例示に影響されずに、自由に発想してほしいと考えたからです。目標や『To-Do List』の内容が、

図1 鳥屋野中学校の教育目標

#### 教育目標 未来を創る生徒

##### 重点目標

- 志を立て実践する
- 考えを吟味し判断する
- 他者を尊重し協働する
- 感性を磨きよりよいものを創造する

##### 鍛え育む資質・能力

- 計画や見通しをもつ
- 意志や感情をコントロールする
- 言葉や情報を適切に使う
- 知識や技能を活用する
- 多様な考えや価値を受容する
- 目標達成に向けて協働する
- 思いや考えを基に創造する

\*鳥屋野中学校提供資料を基に編集部で作成。

\* 学校案内「Toyano Junior High School 2020」は、同校のウェブサイトに掲載されている。右記 URL 参照。 <http://www.toyanojhs.city-niigata.ed.jp/data/2020/leaf2020.pdf>

図2 学校行事での目標と振り返りを記入するポートフォリオ（合唱祭で生徒が実際に記入したもの）

行事のねらいを明記し、生徒・教員が共有

7つの資質・能力を常に明記

**ポートフォリオの書き方**

- ① 7つの資質・能力の自己評価を5段階で記入する
- ② 行事のねらいと①を踏まえて、今回の行事で高めた資質・能力を選ぶ
- ③ ②の到達に向けて行うことを考えて、To-Do Listとして記入する

\* 鳥屋野中学校提供資料を基に編集部で作成。

教育目標を最初に掲げる

左記の行事のねらいを踏まえ、クラスで話し合っ  
て決めた行事のクラスの目標を記入

- ④ 行事の終了後、自分が掲げた目標やTo-Do Listを見ながら、自身の活動を振り返る
- ⑤ 行事を通じて、自分が成長したと思うことを記入する
- ⑥ 行事を通じて学んだことを今後の生活にどう生かしたいかを考える



写真1「学校案内」では、生徒と先生の対話形式で、教育目標を設定した背景や、達成を目指す7つの資質・能力を鍛える方法について説明。

初めは漠然としていても、活動を進めるうちに具体化し、自分の言葉で表現できるようになることを期待しました」

生徒が記入したポートフォリオには、担任が読んでコメントを添える。目標達成のための行動は、最初は「頑張る」のように抽象的でも、次第に「分からない場合は友だちに聞く」「生活などでそれがどのように使えるのかをメモしたりする」などと、より具体的になっていくという。

**◎生徒相互に見られるようにし、刺激し合う機会に**

生徒が書いたポートフォリオは、廊下に貼ったクリアファイルに保管している（写真2）。他者に目標を見られることで頑張ろうという意欲につながったり、他者が書いた内容に刺激を受けたりしてほしいというねらいがある。

「PDCAサイクルを回す経験によって、学びの土台を築き、将来的には自身の学びをデザインできるようになることを願っています。また、ポートフォリオを、文部科学省が2020年度から導入した『キャリア・パスポート』と連動させることで、上級学校へとつなげる予定です」（小川校長）

**◎生徒への声かけにも活用**

生徒の成長が可視化されたポートフォリオは、生徒への声かけにも活用。また、生徒による学校評価につながるこ



写真2 ポートフォリオは、教室前の廊下の壁に貼ったクリアファイルに保管。生徒同士が内容を見られるようにしている。

とも期待している。そして、生徒への声かけは、7つの資質・能力を意識したものになりつつあると、内藤教頭は語る。

「授業に集中できていなければ『意志や感情をコントロールできているかな？』、グループ活動の前には『多様な考えを受け止めることが、よりよいものを生み出す出発点になるよね』などと、7つの資質・能力を想起できるように伝えようと、教員の言葉が生徒の中にすっと入っていくようです」

日々の様々な活動に教育目標を意識できる機会があるため、生徒も教員も教育目標をすらすら言えるという。

**◎日常的な教育活動を生徒主体のものに**

ポートフォリオ導入のねらいの1つである生徒主体の教育活動も、着実に進化している。例えば、体育祭では、新型コロナウイルスの感染予防策を考慮した競技や応援の仕方などを、生徒が考えて創り上げた。また、掃除は決まった時間に一斉に行うのではなく、班ごとに持ち場を設定し、休み時間や放課後など、各班が決めた時間に行うこととした。

「コロナ禍で教員は経験のない対応を迫られ、それならば生徒と一緒に考えるという発想に至りました。そこで予想を超えて成長していく生徒の姿を見て、教員の指導観は生徒に任せるものへと変わりつつあります」（小川校長）

マスクを作って近隣施設に寄付したり、3年生を励ます会を行ったりと、生徒の主体的な活動も広がりを見せている。そのように工夫して楽しみ方を生み出すことは、生きる力そのものだと、小川校長は力を込めて語る。

「生きる楽しさは与えられるものではなく、自分たちが創り出すものです。そのためにも、生徒たちに自らを見つめ、試行錯誤する力を培っていきます」

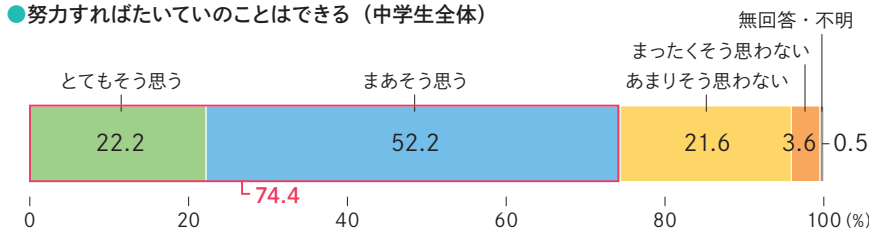
# 「努力を信じる心」を 育むために教員ができること

学力が同程度の子どもでも、努力の価値をどう捉えるかによって、学力の伸びに違いが出るのが明らかになっています。今回は、全国の中学生を複数年にわたって調査したデータを用いて、「努力を信じる心」の重要性と育成のヒントについて考えます。

## 1 「努力を信じる心」は、学年が上がるほど低下

図1 約7割の中学生が「努力すればたいいのことはできる」と思う

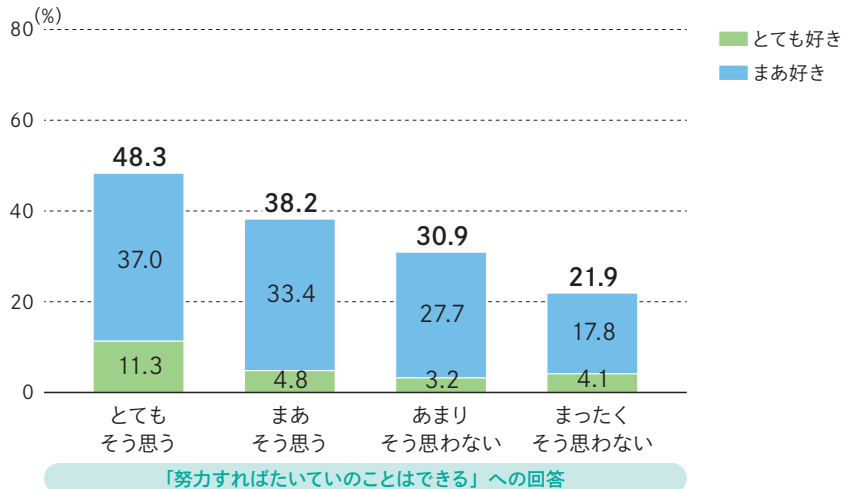
●努力すればたいいのことはできる（中学生全体）



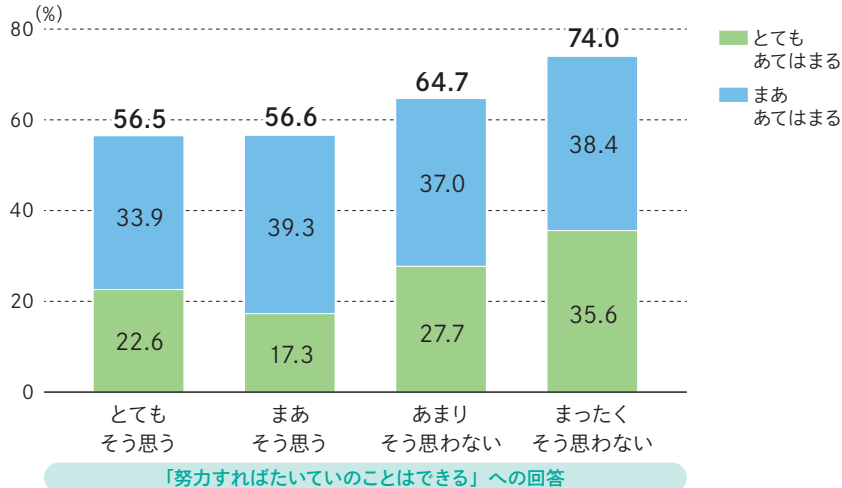
注) 公立中学校に通う生徒の回答。

図2 努力を信じる生徒ほど、学習に前向きになる

①1年後の「勉強が好き」の比率 ※有意差あり



②1年後の「勉強しようという気持ちがわかない」の比率 ※有意差あり



全国の公立中学生に、「努力すればたいいのことはできる」と思うかどうかを尋ねたところ、約7割が「そう思う」（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計）と回答した（図1）。

約7割という調査結果に対して、数が多いという印象を受けるかもしれないが、「とてもそう思う」と回答した生徒は、約2割にとどまる。また、学年別に「そう思う」比率を見ると、中1生（78.0%）>中2生（73.7%）>中3生（71.4%）と、高学年になるほど低くなる。さらに、中学生に比べて高校生の肯定率は低い（中学生全体：74.4% > 高校生全体：71.4%）。生徒の「努力を信じる心」は意識して育まないと、学年が上がるにつれて停滞していくものであるといえる。

努力を信じる生徒は、そうでない生徒に比べて、学びに向かう姿勢が異なるのだろうか。同じ生徒を複数年追跡し、その後「あなたは勉強がどれくらい好きですか」と尋ねたところ、「努力すればたいいのことはできる」に対して肯定的に回答した生徒ほど、1年後に「勉強が好き」（「とても好き」と「まあ好き」の合計）と答えた比率が高かった（図2①）。一方で、学習に対する無力感を表す「勉強しようという気持ちがわかない」（「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計）と答えた比率は、「努力すればたいいのことはできる」に対して否定的な生徒ほど高かった（図2②）。

以上の分析から、努力を信じる生徒ほど、その後の学びに対する関心や意欲が高い傾向にあることが分かる。それは、努力を信じる気持ちの醸成が、生徒の学びに対する意欲を引き出す可能性を示唆している。

## 出典 「子どもの生活と学びに関する親子調査 2016-2018」

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で立ち上げた「子どもの生活と学び」研究プロジェクトによる調査。2015年から毎年、小学1年生から高校3年生までの親子約2万組に調査し、子どもの成長のプロセスとそれに影響を与える要因を明らかにしている。このうち、第2回調査(2016年)から第4回調査(2018年)までのデータを分析に用いた。

◎詳細は下記ウェブサイト(プロジェクトの進行状況)をご覧ください。  
<http://berd.benesse.jp/special/childedu/>

## データ解説

ベネッセ教育総合研究所  
主任研究員

岡部 悟志

おかべ・さとし



本調査のほか、乳幼児とその父母を対象としたパネル調査(縦断調査)にもかかわる。中でも、子どもから大人への移行段階にある青年期の発達・成長プロセスに関心を持ち、研究を進めている。

# 2 「尊敬できる先生」と「自信がつく経験」で努力を信じるように

図3 世帯年収などの家庭背景とは無関係

●世帯年収別「努力すればたいのことはできる」  
 ※有意差なし

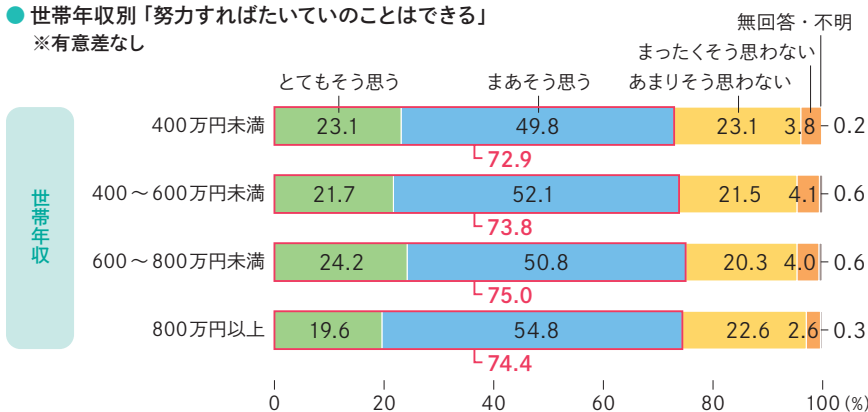
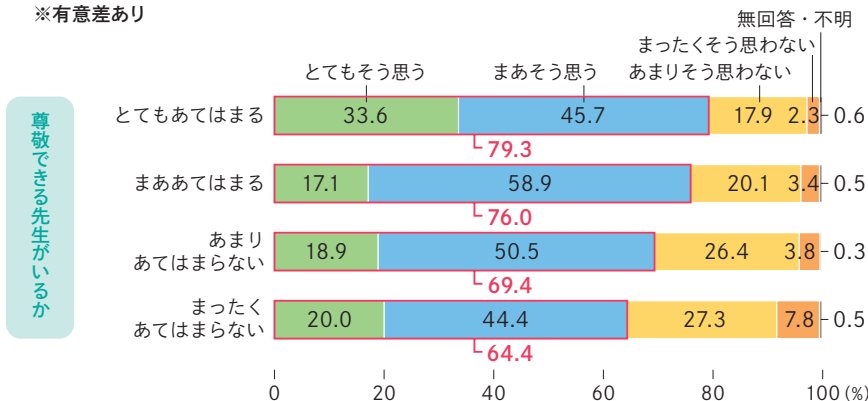


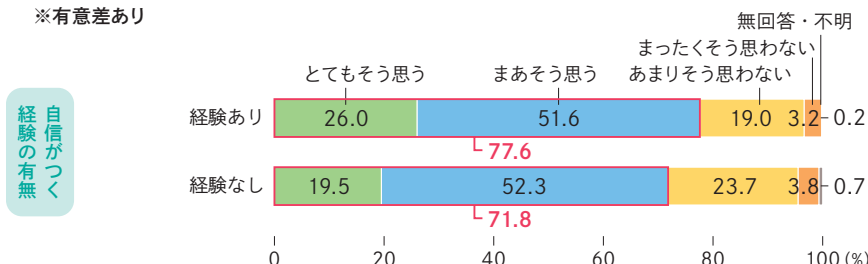
図4 「尊敬できる先生の存在」や「難しいことができて自信がつく経験」が重要

①「尊敬できる先生がいる」への回答別「努力すればたいのことはできる」  
 ※有意差あり



注)「尊敬できる先生がいる」:「とてもあてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の中から1つを選択する設問。尊敬できる教員が存在する程度を表す。1時点前の回答を用いている。

②「難しいことができて自信がつく」経験の有無別「努力すればたいのことはできる」  
 ※有意差あり



注)「難しいことができて自信がつく」:子どもが経験したことを複数項目から選択する設問で、「難しいことができて自信がつく」を選択した人を「経験あり」、選択しなかった人を「経験なし」とした。1時点前の回答を用いている。

努力を信じる生徒にはこういった特徴があるのか。例えば、家庭の経済面との関連性を分析したところ、世帯年収とは無関係であることが分かった(図3)。保護者の学歴別に見ても、同様の傾向だった。それらの結果は、努力を信じることができるかどうかは、家庭環境とは関連せず、別の要因があることを示唆している。

家庭環境とは別の要因として、学校要因と生徒本人要因の2つが考えられる。学校要因には、「尊敬できる先生がいる」の回答別に、その後の「努力すればたいのことはできる」と思うの割合を比較した。すると、「尊敬できる先生がいる」という生徒ほど、「努力すればたいのことはできる」と思う比率が有意に高かった(図4①)。また、生徒本人要因では、これまで「難しいことができて自信がつく」経験をした生徒ほど、「努力すればたいのことはできる」と思う比率が有意に高かった(図4②)。

学びに向かう意欲が湧かないのは、元々意欲が低いのではなく、自分の努力が報われて結果につながる経験が日常的に少ないことから学習してしまったという考え方(学習性無力感)がある。日々の学校生活の中に埋もれてしまっているかもしれない、学習中・学習外を問わず生徒の小さな努力を教員が認めることが、生徒に自信を持たせるきっかけとなる。また、「努力が実を結ぶ」という言葉も、尊敬できる教員から伝えられてこそ、生徒の心に響くのではないかと。

今の中学生は、これから人生100年時代を生きていく。教員が尊敬される存在として振る舞い、生徒自身が困難を克服し自信を得られる機会を増やすことで、一生学び続けるために必要な「努力を信じる」心が育まれることを願う。

## 愛媛県 宇和島市

「現存12天守」  
の1つ宇和島城



国の重要文化的景観  
遊子水荷浦の段畑

うわじまブランド  
ロゴマーク



人口

約7万3,200人

面積

約468.19km<sup>2</sup>

学校数

市立小学校 30校  
(休校2校を含む)  
市立中学校 6校

児童生徒数

4,571人

### ココロまじわうトコロ\*

◎四国の西南部に位置し、歴史の趣と人情にあふれた伊達十萬石の城下町。温暖な気候と豊かな自然の恵みを生かし、柑橘栽培や鯛・ハマチ・真珠の養殖産業が盛んで、全国有数の生産量を誇る。じゃこ天や鯛めしなどの郷土料理や、年5回開催される闘牛も、観光客に人気。

電話 0895-24-1111 (代表)

URL <https://www.city.uwajima.ehime.jp>

\*「まじわう」という言葉は「うわじま」を逆から読んだもので、「交ざり合う」「交差する」という意味を込めた造語。

# 若者のUターンを 促進する仕組みを 義務教育段階から構築

## 「シティセールスで 市の課題に立ち向かう」

鯛の養殖やみかんの産地などとして知られる愛媛県宇和島市。少子高齢化に伴う人口構造の変化や、市外への人口流出といった課題に直面する中、2017年、戦略的なシティセールスによる市の魅力化を公約に掲げて当選したのが、岡原文彰市長だ。

「地元の水産会社勤務を経て、市議会議員を務めていた私は、本市の魅力を市内外に十分にアピールできていない状況にもどかしさを感じていました。地域の持続的発展には、定住・移住人口や交流人口の増加が不可欠です。その実現のために、外部に向けて地域の資源を総合的に発信し、より多くの人々の心に『住みたい、帰りたい、連れていきたい』といった思いを醸成する必要があると考えました」

2018年に策定した「第2次宇和島市総合計画」では、市の将来像に「継承・共育・発信のまち」を掲げた。そこには、「先人が培ってきた宇和島の自然や歴史、産業を受け継ぎ、世代を超えて皆で学び、効果的に情報発信をする」という思いが込められており、教育を含むすべての施策がその方針に沿って展開されている。

## 「市長部局の地域活性化策に 総合学習を組み込む」

同市の人口減少対策の中で教育と深くかかわるのが、2018年に始めた「おかえりプロジェクト」だ。

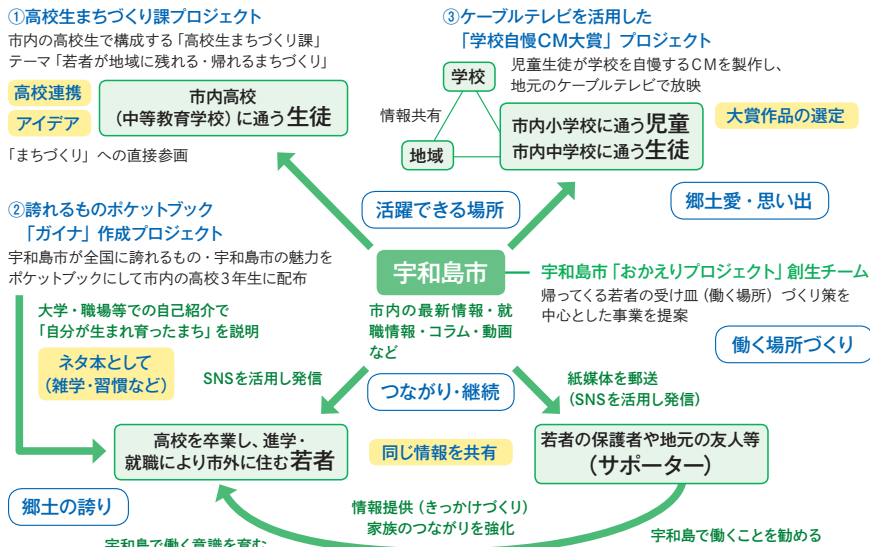
「人口減少の要因の1つは、進学・就職を機とする若年層の市外への転出です。その流れを危惧する一方で、若いうちに地域の外に出て、多様な経験を積んでほしいという思いもあります。そこで、義務教育段階から進学や就職で本市を出た後まで、地域とのつながりを絶やさない施策により、『いつかは帰りたい』という思いを醸成する仕組みを考えました」(岡原市長)

おかえりプロジェクトは、4つのプロジェクトから成る(図)。まず、郷土愛の醸成を図るのが「学校自慢CM大賞」プロジェクトだ。地元ケーブルテレビ局の協力を得て、小・中学生が自校の魅力を紹介する映像を製作する。教育委員会とも連携し、各小・中学校では「総合的な学習の時間」などを充てて、魅力発見の活動やCM製作を行っている。

郷土愛を育みつつ、まちの活性化もねらっているのが、「高校生まちづくり課」プロジェクトだ。市内の高校生の有志が、「若者が地域に残れる・帰れるまちづくり」をテーマにワークショップなどを実施。同市の企画情報課が事務局となり、県内の大学や金融機関などの協力も得ながら新規事業を考え、市に提言するなど、まちづくりに直接参画する。ワークショップに参加した岡原市長は、参加者の成長を次のように語る。

「地域の状況を深く知るにつれ、地域の課題を自分に引きつけて捉えられるようになっていきます。『自分たちがまちを変えていく』というワクワク感と緊

## 図 宇和島市「おかえりプロジェクト」イメージ図



市長 岡原文彰 おかはら・ふみあき

愛媛県宇和島市出身。松山大学卒業後、地元の水産会社に勤務。2013年、宇和島市議会議員に就任。2017年に同市長選で初当選し、現在に至る（1期目）。

張感から、次第に顔つきが変わっていく高校生に頼もしさを感じています」

2019年には福井県鯖江市で開催された「全国高校生まちづくりサミット2019」に、高校生まちづくり課のメンバーが参加。そこでの経験や出会いから、課の活動自体に積極的な提案や意見が出される雰囲気がつくられるようになった。

「人と人とのつながりを通じて、心を震わせ、ときには人生を変えるような体験を積み重ねることで、人間力は育まれていきます。人づくりは一朝一夕にはいかず、子どもが育つあらゆる場面において長期的な視点で取り組むことが、地域の持続的な発展につながると考えています」(岡原市長)

残る2つには、進学先や就職先でふるさとのよさを語れるよう、宇和島市の魅力をまとめたポケットブックを高校3年生に配布するプロジェクトと、市外に出た若者向けに市内の最新情報をSNSで定期配信するプロジェクトがある。就職や生活の情報を提供し、地域とのつながりを途切れさせないようにすることで、帰っても「おかえり」と迎えてもらえるという安心感が持てる。それが帰郷を決断する際の後押しになると考えている。

## 「オール宇和島の「共育」から郷土愛が醸成される」

若者が帰りたいと思える環境を用意するためにも、魅力的なまちづくりは必須だ。岡原市長は、部局横断の「シティセールス推進本部」を設置し、島根県海士町や島根県雲南市などのまちづくりを参考にしながら、独自のシティセールスを模索。2020年、シティブランディングの基本方針をまとめた「うわじまブランド魅力化計画」を策定し、「うわじまブランド」を発信するロゴマークとキャッチコピーも作成した。

「ロゴマークは、小・中学生や高校生を含む1万人以上の市民の投票によって決めました。市民が一体となって地域の魅力化に取り組むことが、当事者意識と誇りを持ってまちづくりにかかわろうとする『シビックプライド』の醸成にもつながると考えています」(岡原市長)

キャッチコピーの「ココロまじわうトコロ」\*には、「宇和島にかかわるすべての人々を温かく受け入れ、様々な人や文化が行き交い、前へ、外へとしなやかに発展していく場所でありたい」という願いが込められてい

る。そうした方針は、家庭や学校、地域、企業などが手を取り合い、世代や立場を超えて市民が共に学び育つことを目指す、同市の「共育」の考え方にも結びついている。

共育を推進する場として、中学生から30代までの若者が自由に利用することができる「青少年市民協働センター」を2020年に開設した。ホールや会議室などを備え、若者の地域活動の拠点にしている。今後は、仕事や生き方について考えるキャリア教育や、世代や業種を超えた交流の支援などにも力を注いでいく計画だ。

さらに、2020年度にはすべての市立小・中学校をコミュニティ・スクールとし、全校区に地域学校協働本部と地域コーディネーターを設置。地域のつながりの希薄化が課題となる中、学校・家庭・地域が一体となった共育を推進する体制を整えた。

「『共育』は、本市の教育施策のキーワードです。自分や地域に対する自信や誇り、愛着を土台として、他者を認め、尊重し、対話や協働を通じて、問題解決に取り組んだり、新たな価値を創造したりする。あらゆる変化に応じて人生を切り開ける人材の育成を目指していきます」(岡原市長)

## Reader's VIEW

## 2020 Vol.2 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

\*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) でご覧いただけます。

◎特集「『可視化』への挑戦」は、エビデンスの重要性を4つの事例と対談で明らかにしていく構成であり、行政の説明責任の観点からも、客観的な根拠の有効性と、それに裏づけられた取り組みの有意性を確認できました。特に非認知能力の育成においてエビデンスを活用できると、可視化により検証がしやすくなると思いました。(福岡県)

◎特集のキーワードである「EBPM」は、大切な教育理念です。データ活用は組織マネジメント上も重要で、情報共有に基づいた実践には教育効果が期待できます。ただしデータは、あくまでも教育活動の客観的な補助情報として活用するシステムです。データを重視しすぎるあまり、子どもを分類化するような教育にならないよう注意しなければなりません。そのためにも、データを活用する教員を、血の通った教育者として育てる必要性を感じました。(千葉県)

◎特集の対談で埼玉県戸田市の戸ヶ崎勤教育長が指摘された、「経験・勘・気合」から「検証・根拠・科学」に基づく教育へと転換することの重要性にはっとさせられました。「経験・勘」を否定はしませんが、あまりに偏っていれば弊害もあります。「検証・根拠」の度合いをより高めたいと感じています。(山形県)

◎特集の事例で紹介された兵庫県尼崎市のように、学校が組織として機能するための働きかけが、今後は一層重要になると考えます。指導主事が教員一人ひとりに直接指導する従来の方式では、指導主事が学校に来た時だけの単発的な取り組みに終わってしまいがちです。行政にも学校にも、発想の転換が必要です。(新潟県)

◎将来的には、小学校にも英語4技能検定を導入し、アセスメントを軸とした小中連携を図ることで、義務教育全体の英語教育を改善する必要があります。特集の高知県高知市の取り組みを読み、小学校と中学校が互いに互いを理解し合い、協力していけばよいかを考えました。また、英語

の評価について詳しく知りたいと思いました。(新潟県)

◎新型コロナウイルスに関する様々な情報があふれ、不安を感じながら日々実践をする中で、特別企画「With コロナ時代の学校づくり」は、学校が進むべき方向性を示してくれた記事でした。「できる範囲で最大限の対策を講じ、子どもの学びを止めないことが、我々大人には求められています」。この言葉が心に残り、これからも大切にしていきたいと思いました。(富山県)

◎連載「フロントランナーに聞く 教育の next」では、オンラインによるフロントランナーと読者との双方向のやり取りという、誌面を超えた新しい取り組みに興味を持ちました。予測できない未来がもう来てしまったのだという思いがあります。コロナ禍で教育も大きく揺れています。自分でも、不易と流行をしっかり見極めていかなければならないと感じました。(秋田県)

◎連載「フロントランナーに聞く 教育の next」を読み、学校は「コレクティブ・インパクト」を体験できる場であるという竹村詠美氏の指摘に共感しました。学校は、一人ひとりが異なる存在として集団生活を送る場であり、そこでの体験こそが子どもを成長させます。学校で単に知識を習得させればよかった時代は過ぎ、AIにはできない、真に生きる力を身につけさせることが、学校には求められていると考えます。(茨城県)

◎本市では小中一貫教育を推進しており、連携校との授業研究会や連携校での勤務などを通じて、小・中の学校文化の違いを知る機会があり、教員同士も顔が分かる関係を築いています。しかし、校内研究を一本化し、育成を目指す子ども像の共有をしても、具体的なアプローチ法までは共有できていません。連載「新課程 GOOD プラクティス」を読み、異学年での合同授業など、児童生徒間の交流活動についても考えなければならぬと思いました。(宮城県)

## 編集後記

『VIEW21』としての最終号は、11都府県(1月下旬時点)の緊急事態宣言下での製作となりました。多忙な業務の中で取材にご協力くださった皆様、そして、今年度は変動的な形態での発刊となったにもかかわらずおつき合くださった読者の皆様に、心より御礼申し上げます。次号からは『VIEW next』として、ステップアップを目指します。今後ともご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。(久保木)

## VIEW21 教育委員会版 2020 Vol.3 2021年2月24日発行/通巻23号

発行人 山河健二  
 編集人 春名啓紀  
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション  
 ベネッセ教育総合研究所  
 印刷製本 研精堂印刷(株)  
 編集協力 (有)ベンダコ  
 執筆協力 田中祥子、二宮良太  
 撮影協力 荒川 潤、ヤマグチイキ  
 イラスト協力 齊藤明子

◎お問い合わせ先  
 フリーダイヤル 0120-350455  
 〒700-8686  
 岡山市北区南方3-7-17



# 社会全体の幸福のために 個人のあり方に目を向ける教育を

元陸上選手・Deportare Partners 代表 為末 大

私は、長年の競技生活を通じて、海外でも生活し、様々な国の人々と交流を重ねてきました。現在の仕事では、医療や経済、教育など、多様な分野の専門家と話す機会があります。そこで思うのは、社会全体の幸福量を上げるために個人がどう振る舞うべきかを、一人ひとりがもっと真剣に考える必要があるということです。そして、陸上競技の指導者として、また一児の父として、周囲との関係性の中で自己のあり方を見つめる教育が重要だと感じています。

今、世界では経済格差が深刻な問題になっています。アメリカ大統領選挙やイギリスのEU離脱に見られるように、貧困層の不満が噴出し、社会システムに影響を及ぼしつつあります。社会的に不安定な国が多く存在し、一部の知識層がそうした混乱への危機感を強く感じていると、友人などを通じて見聞きしています。一方で、そのような国々における社会的成功者である知識層の多くは、成功の要因を個人の努力の結果と捉え、社会システムの問題に向き合おうとはしていないと感じます。その理由は、それらの国々では、社会階層によってコミュニティが分断され、幼少期から多様な周囲との関係を築く体験が乏しく、相手が生きてきた背景を想像できないからではないかと考えます。例えば私が住んでいたアメリカでは、高速道路を1本隔ただけで住民の階層が異なり、全く交流のない状況がありました。

日本でも経済格差が問題視されていますが、まだ完全に分断された社会にはなっていません。地域の学校には多様な背景を持つ子どもが通います。そこで、一緒に学び、遊び、時にぶつかり合うことを通じて、相手の内面や置かれた環境を感じ取り、行動できるようになっていくでしょう。

社会における個人の役割を意識した公教育がなされていることも、日本の大きな強みだと思います。日本の多くの学校では、子どもが校舎を掃除します。自分たちが使った場所をきれいにすることは、自分の何気ない行為と社会とのかかわりを感じ取る機会になり、そうした体験の積み重ねは、自分の行動が間接的に周囲に及ぼす影響を想像できる力を育みます。それは、貧困や環境の問題を始めとするSDGs\*の達成に必要とされる力にもつながるはずで

人は人に会う喜びを感じずにはいられません。大勢の人にもまれながら楽しいこともつらいことも体験して1人の魅力ある人間に成長し、他者を思いやり、社会全体の幸福を築いていく。そうした人を育む教育であってほしいと思います。

## ためすえ・だい

1978年広島県生まれ。スプリント種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。男子400メートルハードルの日本記録保持者(2021年1月現在)。現在は執筆活動、会社経営を行う。Deportare Partners 代表。新豊洲Brillia ランニングスタジアム館長。Youtube 為末大学 (Tamesue Academy) を運営。

\* Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。

